

五

稜

第 31 号 (平成 3 年度)

五稜中学校校歌

小島昌平 作詩
酒井武雄 作曲

J-108-112

一
 ひんがしに 吉城のたもと
 花なわらび 五稜が丘に
 昔人の息吹きい満ちぬ
 水たふらふもまたたけ
 新しや老に立ちて
 大なる力付けし人

ニ
 さくら花 しとしと仰ぎ
 友愛の堅く結びて
 こころ鳴り自主の鐘の音
 ひびくしんがしに花の
 筆さゆく理想の空
 ありよまにわれら守えあれ

マラソン



スタート



転ばないで、



あと半周



ゴール目前

入学式



式 辞



生徒代表挨拶



入学式場



学級指導

学級スナップ



文化祭 (1D)



体育大会優勝 (1A)



研究授業 (2A)



入学式 (1B)



宿泊研修 (2B)



入学記念 (1C)

学級スナップ



げいび溪 (3B)



開陽丸 (2C)



バレー優勝 (3C)



開陽丸 (2D)



体育大会優勝 (3D)



サッカー優勝 (2E)



中尊寺 (3E)



盛岡手づくり村 (3A)

中 体 連

校内体育大会



陸 上



ハ ー ド ル



野 球



2 0 0 m



バ ス ケ ッ ト



1 0 0 m



卓 球



走 り 高 跳 び

旅行・遠足



春の遠足

文化祭



吹奏楽



宿泊研修



演劇



修学旅行



バンド演奏



校外学習



展示

授業風景



研究授業

生徒会



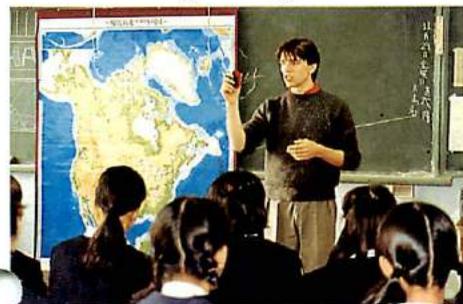
生徒総会



習字



立会演説



英語



立候補者



技術・家庭



生徒会ブロック会議

❁ 平成3年度教職員 ❁



目 次

○グラビア写真

○巻 頭 詩	1
神がかりなご宜託と進路.....校長 田嶋靖彦.....	2
『旅立ち』.....PTA会長 廣部七郎.....	3
激しく揺れ動く社会に確かな眼を持って.....教頭 高村昭三.....	4
新総務抱負を語る.....	5
一年を振り返って.....	7
生徒会一年の足跡.....	9
専門委員会.....	13
卒業生へ 学年関係の先生・職員から.....	17
在校生より	
卒業生より	
部 活 動.....	25
思い出をこのページに残して.....	35
思い出の旅日記	47
受賞一覧.....	52
学級プロフィール	54
宿泊研修旅行.....	59
西部地区を探訪.....	61
座 談 会 -学校生活について考える-.....	62
文 苑.....	65
職員名簿.....	75
編集後記.....	76

時^と 間^き

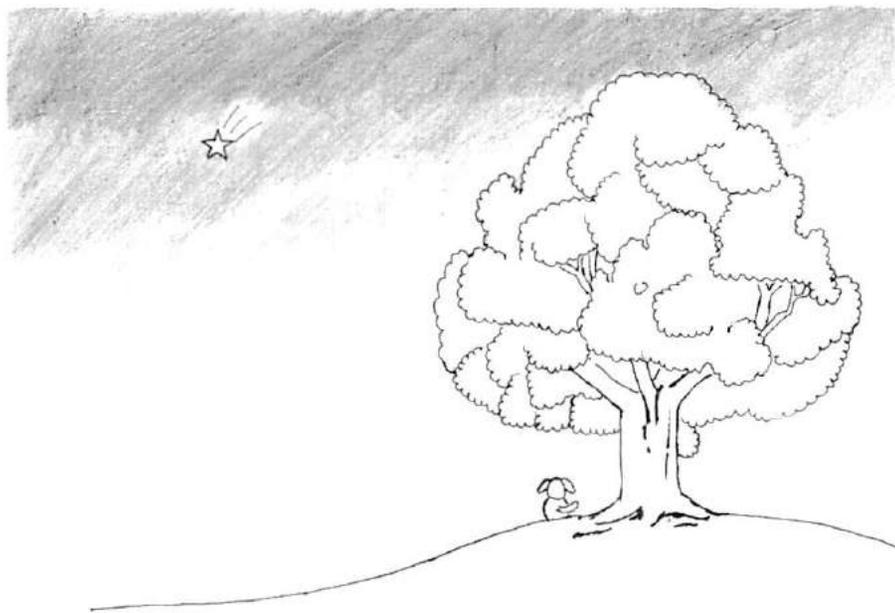
三年 阿部久美子

最高に幸せな時間
いつまでもこのままでいたいけれど
時間は過ぎて行く
残ったものは 思い出……

自分の心にうそをつき
適当に生きていても
時間は過ぎて行く
残ったものはむなしさと後悔

これからの時間にむけての
ゆるぎない決意が
可能性の広がる未来へと
わたしを導き 案内してくれるはず

今あるこの時間を
過去にふりまわされないように
ゆるぎない決意をもって
精いっぱいすすめていきたい
二度とないこの時間を





神がかりなご宣託と進路

五稜中学校長 田嶋靖彦

わが子の進路を 神様と称する人や占い師に決めてもらう人がいるとの話を聞いて驚いています。

確かに人間は、頭脳が発達した動物ですから、暗示にかかりやすい側面を持っています。また一般に、人々は生きていくために多くの不安と弱みを持っているのも事実です。そのため、洋の東西を問わず大昔から占い師の活躍の場があり、占い産業がはやる素地がありました。遊び心で星占いをしたり、トランプ占いをするのは、はじめから当ても八卦当らなくても八卦という心の余裕がありますから、それはそれなりに楽しいでしょうが、わが子の一生にかかわる進路を、神がかりなご宣託で決めるぐらい 愚かなことではないと思います。

神がかりなご宣託ぐうい馬鹿らしいことではないという事例を一つ述べてみましょう。私の母は 私がもの心ついた頃から、私に対して、「お前が赤ん坊の時占い師にみてもらったところ『この赤ちゃんに短命の相がでています。お母さんがこれから十分気をつかって育てれば、それ相当の人生を全うすることができるでしょう』と言ったものだ。だから母さんはその時以来、随分気をつかって育ててきた。」とよく言ったものです。

さて、この占い師の言葉を冷静に吟味してみましょう。短命の相がでていまずという言葉に驚いてはなりません。お母さんが十分気をつけて育てれば、——という条件がついていることに注意してほしいのです。この占い師のご宣託は、赤ちゃんが短命に終わるいはそうでなくても、どちらにも当るように表現されているのです。つまり、短命に終れば、母親が気をつけなかつたからだと言いつし、短命に終らなければ、母親が気をつけて育てたからだと言いつしすることになります。

神がかりなご宣託は、よく吟味してみますと、断定的な表現をしていないことが、圧倒的に多いものです。

私は、子どもたちの父母や教え子から、子どもの進路や自分自身の進路について相談を受けたことが、何十回となくあります。自分の進路をいざ決めるとなると、簡単なようで難しく、迷うのがあたりまえかもしれません。しかし、自分の大切な進路を 神様だとか、占い師だとか、父や母だとか、担任の先生とか、だれかに決めてもらってはならないのです。それではいざという時、甘えの心がでてきて、肝心の自分自身がくじけてしまうからです。

人間は、それぞれの個性を磨いて、社会に貢献することが大切なのです。個人に個性があるからこそ、だれもが人間として平等に取り扱われるとも言えるのです。「自己の個性を理解し、その個性が社会と調和を保ちながら、開花できる進路」を探究する必要があります。そして、進路は自分で決めることなのです。



『旅立ち』

PTA会長 廣部七郎

春まだ浅い三月のある日、ここ五稜中学校から、今年も十五才の春を迎えた若者が、巣立っていく義務教育を終え、これから社会へ出て働く人、進学する人に分かれ、自分の旅が始まる。

これからの長旅に、希望に胸をふくらませ、大地を踏みしめる足元にも力強さを感じられる。しかし肝心の心構えの方はどうであろうか。目的地に達するまでには、数限らない試練が待ち受けているに違いない。それらを一つ一つ慎重且つ大胆に解決し、克服していかなければならない。ある時は炎天酷暑に苦しみ、ある時は暴風雨に遭遇し、進退まさに極まるかも知れない。だが苦しみにあつた時こそ君達の真の姿が現われると思う。苦しみに負けてはいけない。困難から逃れようとしてもいけない、何としても目的地に到達しなければならぬ。旅をしているのは君達自身なのだ。今歩いているのは自分であることを自覚した時、初めて道は開け、前途に光が見えてくるし、いろいろな可能性も生まれてくる。君達を樹木にたとえると、芽が出て、一本の木から枝に分かれるころと思う。燃えたぎる青春のエネルギーで、幾多の試練を乗り越切つて進むことによつて、君達の存在価値があり、生きている実感を自分自身の手で掴むことが出来る様になる。苦しみ・困難は旅にはつきものだ。これらに負けていては旅は続けられない。時には道に迷い、何時までも同じ場所を堂々巡りするかもしれない。それが人生の勉強となり、人間として大きく育っていくのではないだろうか。失敗も旅にはつきものだから、それを恐れているようでは、何も出来ない。失敗も、君達若者に許される特権なのだ。

旅をしていると、いろいろな人と出会うことになる。自分の考えと同じ人、又、全然違う人などの出会いの中で、人間関係の勉強となることが出来る。

私も、自分の旅が人生の半ばも過ぎ、この歳になってから、ようやく、何事にも「してやったのだ」ではなく、「させていただく」という感謝の気持ちを持つことが出来る様になった。私でさえ目的地に向かい、まだ、まだ歩み続けている。

君達には、あらゆる可能性にみちた旅である。目的地に向かい、一步、一步、大地を踏みしめて歩いて行くのだ。長旅には健康な体が要求される。常に体調を整え、成功の道に到達することを、心より祈念する。



激しく揺れ動く社会に確かな眼を持って

教頭 高村 昭三

二十一世紀が目前に迫っています。卒業生の皆さんは、間違いなくその時主役を演じることとなります。そこで、二十一世紀がどんな時代となり、どんなことに心がけていかなければいけないか、真剣に考えておかなければなりません。

まず第一は、国際化の進展にどう対応するかという問題です。本校もカナダのハリファックス市、フェアビュー中学校と姉妹提携し、交流を深めながら国際理解を図っていますし、外人教師や留学生の来校する機会も多いので、皆さんはそれ程外国人に対する抵抗はないかも知れません。

しかし、ほんとうにお互いやそれぞれの文化を理解し、協調できるかどうかはなかなか難しい問題です。そのためにも、自国の文化・歴史や伝統への深い理解と自覚を持ちつつ、他国の人々の生き方や考え方の違いをよく知って、誠意をもって共存する道をさぐっていくことが大切です。

第二は、地球全体の環境保全の問題です。少し大げさに言えば、この環境問題に人間が適切に対応できなければ、人類は二十一世紀を生きることができないかも知れません。地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、海洋汚染、熱帯林の減少、砂漠化等々、そのいずれをとってもその解決の道は容易ではありません。ただ、そのいずれもが、人間の功利的で利便性を追って開発を無計画におし進めてきた結果がもたらしているということなのです。

これでもか、これでもかと今後も無秩序な開発が進めば、間違いなく人類は破局を迎えます。この際、人間も動物であり、自然の一員であることの自覚をもって生きていく必要があるでしょう。

第三は高齢化社会の到来に対する問題です。世界一の長寿国になった日本は、子供の出生率が減っているのに老人が多くなっていく状態が続きます。従って、少ない労働人口で多くの老人をかかえていかなければならない社会に入っていきます。それだけ若い皆さん方への負担が重くなるということです。

勿論、国としてもその対策については手を打っていくでしょうが、日本人が今後も豊かな生活を求めていくためには、避けて通れない問題です。思いやりや敬老の精神が一層望まれることになります。

第四は、生涯学習社会の到来にどう対処するかの問題です。第三の高齢化社会との関連もあって、八十年の人生をいかに豊かに逞しく生きていくか、生きがいのある人生を送るかが大問題です。

急速に変化する社会にあって、学校で学んだ知識や技術だけで教育は終わったと思ったら大間違いです。それだけに、自分の適性や能力を一層伸ばし、趣味や特技を身につけることをおこなってはなりません。これだけはやり通したい。この道を究めたい、という意欲と努力によって充実した一生にしてほしいものです。

今、卒業する皆さんにとっては、当面する進路のことで頭が一杯かも知れません。勿論そのことに全力を投入しなければなりません。同時に、人生設計の確かなビジョンも持ちたいものです。

新総務抱負を語る

終りと始まり

会長 小林 優

一年の任期が終わり、そしてまた一年の任期が始まりました。心
 のうえではどうあれ、やはり一年という時間は長いものです。自分達
 は、その一年の間に一体何ができたのか、何をすべきなのだろうか。
 一年間、生徒会会計として生徒会活動をしてきて感じた事は、生
 徒会における生徒の不在です。そのことで、はがゆい思いをしたこ
 とが何度かありました。そう感じていながらも、自分は何もできな
 かったし、しなかった。これは非常に難しい問題です。生徒会だけ
 では何もできません。しかし、だからといってまた自分は何もしな
 くていいなんてことは許されません。まずは、小さなことからやっ
 ていくべきです。はじめの一步、として「ボイスボックス」の活用
 をします。それによって出てきた意見を吸収し、生徒会を発展させ、
 そして生徒が参加できる生徒会にする。それが、当面の目標です。
 もちろん、自分一人でそう考えていても、何もできません。考え
 るだけではなく行動し、一人ではなく七人で。ともすれば「一年間
 の経験」に依存し、なまけたり妥協しがちな自分の心に、戒めの鉄
 拳をうちこむことを忘れないようにしなければなりません。常に前
 を向いて進んでいくことが、自分達のすべきことなのだから。

総務の一員として

副会長 谷口 哲将

ぼくが入学してきた頃は、生徒会について説明されてもよくわか

らなかったし、まさか生徒会で副会長に就任するなど思ってもい
 ませんでした。

しかし、一年半あまりたった今、みなさんの暖かい御支持を受け、
 副会長という仕事を受け持っています。

このみなさんの期待にそむかぬよう、非力ながらも一生懸命がん
 ばろうと思っています。残された一年あまりの活動の中で、「良き五
 稜中学校」に少しでも貢献できればと思っています。

僕は、僕として、できる限り仕事をこなし、同じ総務のみなさん
 とできる限りの「意義のある、すばらしい仕事をしていきたい」と
 思っていますので、これからもよろしくお願いします。



後期 生徒会総務

会長	副会長	書記	書	計	会
小林 優	谷口 哲将	宮腰 聖子	柏 充	西口 しのぶ	佐藤 健太郎
					山川 加奈

初心、忘るべからず

副会長 宮 腰 聖 子

何事も、二度、三度と同じ事をしているうちに「慣れ」が出てくるものです。

私が生徒会活動の中で、今でも大変だと思うことは、やはり朝のあいさつ運動です。寒くても、めんどうでも、玄関に立って、生徒にあいさつをする。初めのうちは、つらい仕事だと思っていましたが、最近では、私の日常生活の一つとなっています。

私の生徒会での仕事は、これで二年目となります。大抵の仕事は一度経験しています。仕事にも「慣れ」が出てきています。

「慣れ」るのは良いことですが、「慣れ合い」で、だらけた、中途半端な仕事をする訳にはいきません。初心にかえて、一生懸命頑張りたいと思います。これから一年間、よろしくお願いします。

書記としての心構え

書記 柏 充

「自分には厳しく、他人には優しい思いやりを」いつも、心に置き、五稜中学校の代表として、生徒会活動に取り組んで行こうと思います。僕の背中には、全校の心がある。みんなが、納得いく学校をつくる事に努力します。挨拶運動や、「ボイスボックス」を、おおいに活用していくつもりでいます。学校づくりは、みんなの力とともに、実現します。明るく、充実した学校をつくりたいと思っています。よろしくお願いします。

生徒会役員として思うこと

書記 西 口 しのぶ

生徒会の役員になって、もう何ヶ月もたちましたが、いまだに慣

れない仕事がたくさんあります。挨拶運動や、生徒会日より、その他にも、みんな協力しなければならぬ事があると思います。

しかし、実際やってみると、なかなか楽しい事だと思えます。

これから、役員として活動していくために必要な事はみんな協力する事だと思えます。これからも、この「協力」という言葉をい

かし、旧総務の人達に負けずにがんばりたいです。

会計になって

会計 佐 藤 健太郎

僕が総務の一員になり、少し日がたちましたが、今までは与えられた仕事に、その都度対応してただけだったように思います。それを今の改善点と考えています。

これからも、いろいろな難題に取り組まなければならない場面が何度もあると思いますが「CHALLENGE FOREVER」の精神で頑張っていきたいと思えます。

みなさん、どうぞよろしくお願いします。

残された私達の仕事

会計 山 川 加 奈

私達生徒会総務七人は、十月二十五日の投票で決められ、今、私達七人は、生徒会室で帰り遅くまで仕事や話し合いをしています。

この活動は、五稜中学校を住みよい「みんなが集まる場」としてすこしや学校にするためのものなのです。

私達七人は、あと半年の月日を協力し合い、明るく、楽しい生徒会及び学校にするために、これから頑張っていこうと思えます。

そしてなにか、新しい事をやりたいと思っています。

一年を振り返って

—より充実した生徒会を!!—

会計		書記	副会長		会長
金野瑞穂	小林優	田中稜子	斉藤貴生	宮腰聖子	高野貴之
					多田徳広

前期 生徒会総務



短かった一年間

会長 多田 徳広

一年間はあっという間に過ぎ、十月で任期が終わった。初めは長いと思っていた一年間だったが、いざ活動してみると、とても短く感じられた。しかし、その間に行事の企画、運営など多くのことを学ぶことができた。行事の企画、運営は、実際に自分たちでやってみると、意外に難しく、どうしてよいかわからないこともあった。しかし、そのような生徒会活動の中で、「自主性」が培われたと思う。それに反して、反省すべき点が一つある。それは、「VOICE BOX」を十分に活用できなかったということだ。だから、新総務には、「VOICE BOX」を十分に活用し、意見を取り入れて、「生徒全員が参加できる生徒会」にしてほしいと思う。

健闘を祈ります！

副会長を経験してみて

副会長 高野 貴之

僕は、生徒会副会長をやってみて生徒会総務というものは、想像以上に重要なものだと感じました。今まで各行事の計画や運営をしてきましたが、僕は人に頼る事が多かったと思います。総務として数多くの仕事をすることによって、総務になる前までは何となく見ていたものや、参加していたものも総務一人一人の努力や苦勞があるという事に気づきました。総務をやってみてたくさん事を学んできたと思います。この一年間はとてもよい経験になりました。

ふり返って、考えて

副会長 宮 腰 聖 子

「この一年、私は何をしてきたのだろう。」ふと、こんな事を考えてみました。

確かに、この一年間、生徒会副会長という役についてはいたが、それに見合う行動は、あまりできなかったような気がします。年上の人に頼ってばかりだった気がします。

これからは、頼る先輩はいません。最上級生として、できる限り頑張りたいと思います。一年間、本当にありがとうございました。

生徒会活動を通して

書記 齊 藤 貴 生

昨年の選挙に当選してから約一年間、生徒会活動をしてきて気づいた事は、どんな事でも人まかせにしてはいけないという事と、生半可な気持ちではこの生徒会でやっていけないという事だった。

だけど新総務となった人達は、皆やる気があふれていて、この人達ならば、この五稜中学校をより素晴らしく築いていってくれると思います。そのためにも全員で力を合わせ頑張ってほしいです。

最後に一言、上田先生、どうもありがとうございました。

生徒会の仕事を終えて

書記 田 中 綾 子

私はこの一年間、「生徒会書記」という肩書きの中で、たくさんの人と接し、たくさんのお話を学びました。

苦勞をしたこともたくさんありました。冬の寒い日のあいさつ運動、暗くなるまで残った生徒会、行事前の準備や後始末など、いろいろなことがありました。総務みんなど、全校生徒のみなさんのおかげで、ここまでこれたと思っています。最後に、ご指導くださった先生方と生徒の皆さん、本当にありがとうございました。

任期を終えて

会計 小 林 優

一年間というのは、やはり長いものです。はじめのうちは、「まあ、こんなものだろう」と、曖昧な気持ちで総務として活動していましたが、やがて「これではいけない」と気がつきました。もっと早く気がついたら、そう思いますが、失敗はあっても、本気でやることができました。だから遅くても、気がついただけ良かったと思います。長い一年の中で、自分はどれだけお話をしたか、まだわかりません。今度は会長として、一年間本気で頑張ります。

私の生徒会活動

会計 金 野 穂

総務としての一年は非常に早かったと思います。しかし、文化祭の終わった頃からは大きな仕事もなく、月日のたつのがいつもより遅く感じられました。

私は生徒会の仕事をやって本当に良かったと思います。つらいことと分業しいことも多かったし、第一自分のためになりました。ただ私の場合失敗が目立つことが多かったのが残念です。

新総務のみなさん、心機一転してがんばってください。

平成三年度 生徒会一年の足跡

みなさんの今年一年は充実していたでしょうか。月日がたつのは早かったでしょうか、遅かったでしょうか。私達生徒会もこの一年間生徒総会、文化祭、募金活動などの活動を通して様々なことを学びました。今思えば非常に自分にとってもプラスになることばかりでした。今年をバネに、来年はより一層飛躍するよう努力したいと思います。

四月

6日 入学式・第一学期始業式

新入生も在校生も新たな気持ちで第一步を踏み始めました。樹木も、花をつけているものはあまり見えませんが、今か今かと開花を待つつぼみが枝から顔をのぞかせていました。

8日 新入生を迎える会

生徒会や各部活動の説明などによって一年生も中学校について少しは理解できたのではないかな。

9日 あいさつ運動開始

本格的な生徒会活動が開始されました。

15日 任命式

各委員会から一人ずつ代表が任命証を受け取りました。任命証を手に活気に満ちた表情でした。

16日 前期代議委員会・専門委員会活動開始

五月

活発な話し合いがなされ、半年の活動内容が決定されました。

11日～14日 修学旅行

三年生の最も大きな行事の一つです。げいび溪、竜泉洞、中尊寺など、景色も美しく、長い歴史を感じさせる所ばかりでした。

30日 第三十一回校内体育大会

青空の下、日頃の練習の成果が新しく整備されたグラウンドで



入学式…多田会長のあいさつ



あいさつ運動

大いに発揮されました。

・学級旗コンクール

各学級色とりどりの美しい学級旗ばかりでしたが、特に金賞となった一年C組、二年B組、三年F組の旗は見事でした。

六月

6日 校外清掃

珍しく天気が快晴となり、さわやかな風の吹く中、五稜郭公園でゴミ拾いをしました。函館が誇る文化遺産の五稜郭公園のすばらしさをあらためて実感しました。

8日 第十四回マラソン大会

長い距離を走るは大変でしたが、走り終わった時のすがすが



公園での清掃活動



生徒総会

しさは忘れられません。

13日 生徒総会

長い時間をかけ準備しただけあって、ステージも例年より立派になり、活発な話し合いができ、私達生徒会も一安心しました。失敗もしましたが、努力が実った時はうれしかったです。

15日 中体連陸上競技大会壮行式・応援

応援された選手も応援した生徒も気迫がこもっていました。

16日 中体連陸上競技大会

晴れた空の下で選手達はそれぞれ懸命にがんばっていました。

七月

5日 生徒会ブロック会議

二時から本校の図書室で行いました。司会進行は少々緊張しましたが、他校の意見はとても参考になりました。

8日 中体連総合競技大会壮行式・応援

各部それぞれ勇ましい意気込みを見せてくれました。

8日 雲仙普賢岳共同募金

一年生からの提案で始まり、七万円近くの寄付金が集まりました。協力ありがとうございました。

9日 中体連総合競技大会

各部とも健闘しましたが、特に野球部が本校二十年ぶりの優勝と快挙をなしました。野球部のみなさんおめでとう！

22日 第一学期終業式

順調にすべり出し、順調に生徒会の活動を推し進めることのできた一学期でした。

八月

17日 第二学期始業式

あつという間の夏休み。これからが本番です。

・教生着任式

若さみなぎる教生先生。五名いらっしゃいました。

22日 文化祭実行委員会発足

文化祭へ向けて活動開始。全校生徒から募集・投票の結果今年のテーマは「CHALLENGE FOREVER」更なる前進」と決定しました。

九月

18日～28日 あいさつ運動・交通安全標語・ポスターコンクール

力作ばかりが展示され、充実したコンクールが開けました。

27日 校内弁論大会

自分の意見をはっきり述べ、すばらしい大会となりました。

30日 教生退任式

教生先生、楽しい思い出ありがとうございました。これからがんばって下さい。

十月

4日・5日 第三十一回文化祭

テーマ「CHALLENGE FOREVER」

記念すべき開校三十周年の文化祭。例年がないバンド演奏や本校三十年の歩みのスライドなどで盛り上がりを見せました。

8日 校外清掃中止
悪天候に見舞われ、残念ながら中止となりました。

14日・17日・18日 球技大会

勝ったも負けたも悔いがないほどがんばりました。

25日 生徒会役員選挙

一年生・二年生から多くの立候補があり、生徒会に対する意識・関心の強さを見せてくれました。どの人も立派な演説を披露してくれました。

十一月



仕行式



ポスター展

11日 生徒会誌「五稜」編集委員会発足

生徒会総務と二・三年生の代議員各学級一人ずつで構成、この

「五稜」の制作が開始されました。

26日 学級読書会

忙しい生活が続く中でじっくりと読書にふけり、有意義な二時間でした。

28日 後期役員任命式

後期へバトンタッチ。残りわずかですが、がんばって下さい。

十二月

9日〜12日 歳末助け合い運動

一人一人の暖かい善意で六、万八千百十七円もの寄付金が集まりました。ご協力ありがとうございました。

24日 第二学期終業式

二学期も終わり三年生はゴール間近となりました。手にした通知表の結果は……

一月

20日 第三学期始業式

残りわずかですが、気を抜かずがんばりましょう。

二月

8日 冬のレクリエーション(二年)

15日 冬のレクリエーション(一年)

一・二年生だけです、息抜きに良かったでしょう。

三月

7日 三年生を送る会

三年生にとって思い出に残る楽しい行事だったのでではないでしょうか。

14日 卒業式

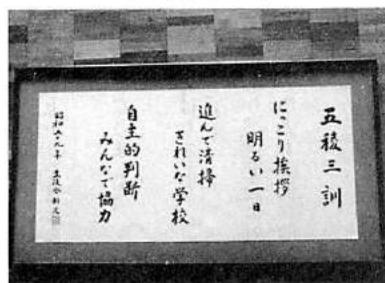
三年間のしめくくりです。どんな思いを抱いて卒業証書を受け取ったのでしょうか。

24日 第三学期終業式

こうして一年間が終わりました。進級・進学に向けてこの一年間を大事にして下さい。



役員選挙



五稜三訓



更なる前進

代議員会

代議員の仕事の一つに、「あいさつ運動」があります。私達が入学した当時、「五稜三訓をもう一度見直そう」という案が出て、「っこりあいさつ明るい一日」を、生徒の中に浸透させる目的で、「おはよう」の呼びかけが始まりました。冬は寒くてけっこうつらい時もありますが、心の輪が出来ればと思いがんばっています。

生徒会は、私達生徒の為の活動です。一人一人の参加と、委員を選ぶ姿勢が大事だと思います。皆さんは、自分達の意見を代表してはつきり言ってくれる人を選出しています。委員会に来て自分の思った事もいわず、ただ座って人の意見をきき、終わった、終わったで帰る人もいます。選ばれてバッチを付けている以上、責任をもって行動するべきだと思います。

この三年間、私は生徒会活動に参加して、勉強になり本当に良かったと思います。皆さんも参加して、この活動を一つづつ前進させていってほしいと思います。

(佐藤 望 記)

GOOD LUCK 学習委員!

学習委員会

今年の学習委員会の活動を振り返って、反省点や問題点、よかった点などあげてみると、まず、朝自習の時間は全てのクラスが、やっているけど、何人かの人がやらなくて遊んでりしています。これはやっぱり委員の人が注意しなければなりません。

次には、忘れ物調べは、一部のクラスしかやっていなかったの、今後は、全てのクラスにやってほしいと思います。

悪い点ばかりあげてみましたが、もちろん良い所もあります。教科連絡は各学級がきちんと行っていたし、朝自習でのテスト対策の問題作成は、学年ごとに協力してやっていた。これらは、よくやってくれました。

今後の学習委員会では、よりよい学習環境をつくるために、今までやらなかった新しい仕事や、今まで計画だけで実行しなかった仕事などを見つけて、積極的にやって今までの以上に頑張りたいと思います。

ガンバレ! 学習委員会

GOOD・LUCK

(大森 暢彦 記)

今後の生活委員に積極性を

生活委員会

生活委員は生徒の一番身近な所で活動している委員会です。その活動は主に、朝のあいさつ運動、週番活動、教室の中の点検活動などです。それらの活動をここで振り返ってみたいと思います。

まず、あいさつ運動ですが、さすがに朝はつらいせいか玄関に出てくる人が少なかったです。しかしその中でも、朝、きちんと出てくれて、大きな声を出してあいさつをしてくれた人もいました。

次に週番活動ですがこれは皆よくやってくれたと思います。ただ一部の人があまり出席しなかったのは残念だったと思います。

それから教室点検活動ですが、これはものすごく悪く、ほとんどのクラスの人が出さずにいました。これが一番直してほしいと思うことです。

最後に、生活委員は生徒の悪いところを積極的に注意しなければいけないのですが、今年の前期の生活委員は積極性が足りなかったため、今後の生活委員には積極性をもってもらいたいと思います。(平沢 孝雄 記)

保体委員の仕事をやってみて

保体委員会

保体委員の仕事は主に前期が多かった。その仕事は、体育大会・マラソン大会・球技大会などがありました。その他にも、清潔検査・石けんの点検・体育の教科連絡などもありました。それに、あまりやらなかったのもありました。そのあまりやらなかったのは、石けんの点検でした。しかし、これらの仕事を各学級の保体委員がそれぞれ協力し、取り組んでくれました。

このように、保体委員の仕事は、前期に多く、後期に少ないという形でした。しかし、後期に仕事が少ないでも一生懸命に完璧な保体委員になってほしいと思います。

最後に僕たち三年生はこれから勉強に力を入れて頑張りますので、みなさんも頑張ってください。

(田子 志信 記)

気合いを入れて

給食委員会

ぼくは二年、三年と、給食委員になったんですけど、たいした仕事はありませんでした。けれど、そのたいしたことのない仕事があると面倒でした。

ナフキン調べなんかは、わざわざ表を作って、毎日一人ずつ調べるのですが、けっこう面倒なのです。でも、こうしないとみんなが持って来ません。台ふきなども、みんなが気持ちよく食事をとるために、一日も欠かせません。白衣の点検なんかは、忘れてくる人がいるので大変です。

こういった他の人から見たら、たいしたことのない仕事も、自分でやってみると、けっこうつらいと思うことがわかります。ぼくも、給食委員をやるうと思ったのは、簡単そうに見えるのでやりました。

けれど、やってみてならなければよかったと思います。しかし、今では給食委員長を勤めて、気合いを入れてやっています。

給食委員になろうと思っている君、楽な仕事ではないけれど責任を持って気合いを入れてがんばってください。(畑沢 正樹 記)

整美委員の活動を通して

整美委員会

今年の整美委員は、一年から三年生までのほとんどが自分から進んでなった人ばかりでした。だから、「整美だより」やトイレ当番の紙なども手をあげて、自主的にやってくれ、委員長としては、とても助かりました。

でも、整美という仕事は他の人からみると、「目立たない」「めんどうくさい」などと考えている人も多いと思います。しかし、今年の整美委員会は、仕事を分担しよく協力できたと思います。

また、残念なこともあります。それは、一生懸命清掃してきれいな学校にしようとする人達がいる中で、ゴミを落としたり、学校のいろいろなものが壊れたりすることがあったことです。がんばっている人達の事をもっと考え、学校をもっと大切にしてほしいと思います。

これまで、多くの先輩たちが築いてきた五稜三訓の一つの「進んで清掃 きれいな学校」をもっとみんなが生かしてほしいと思います。

最後に、後輩のみなさん、がんばってください。
(岩崎 幸子 記)

文化委員会の現状

文化委員会

自分が文化委員会に入った理由は、「簡単な委員会だなあ」と思ったからだ。

こんな軽い気持ちで入った自分は、なんと委員長になってしまったのです。軽い気持ちで入ったので突然委員長になれと言われてイヤとは言えなかったんです。なってしまったものはしかたがないので自分は文化委員の仕事について考えた。文化委員の仕事は目立たないものばかりでした。まず、校内の掲示物のはりかえやポスターはり、二ヶ月に一度発行する学級新聞を作る、などがそうでした。文化祭では、ポスターコンクールを審査しました。意外と大変な作業でしたが文化委員全員がきちんと審査してくれました。

文化委員会を見て一つ強く感じた事がありました。仕事はきちんとしてくれてただけで、委員が元気が無いというか、おとなし過ぎたんです。それで、発言があまり無かったのではとんどが静まりかえてました。これから文化委員会に入ろうと思っている人は、明るく活発な文化委員会を作ってください。

(神 裕介 記)

最後の委員会

図書委員会

ぼくは図書委員会で、何か特別良いことをしたのだろうか。

図書委員の委員長としての自覚をもったことがあるのだろうか。

答えはどちらも「いいえ」としか言いようがないのである。

ぼくが図書委員会に入り、委員長に選ばれて、委員長はどんな仕事があるのか、など期待と不安でいっぱいだった。

ところが、特別まかされた仕事は、生徒総会においての委員会の紹介や、質問のうけ答え、文化祭での開会式の時の仮装だけだった。つまり、恥ずかしいところだけに残っている。

図書委員会を終わってみて、何か物足りなかつたような気がする。そして、中学校生活最後の役員の仕事としてはどうもすっきりしないものがある。

来年以降の委員長にはバリバリ頑張ってもらい、図書委員会を立派にしてほしいものである。
(津谷 雅敏 記)

みんなの心にやすらぎを……

放送委員会

私たちは、一年間一度も欠かさずこの仕事を続けてきました。そう……みなさんもごぞんじの「朝の放送」アンドン、「お昼の放送」です。この仕事は、本当に大変でした。体育大会よりも文化祭よりも中体連よりも……

「朝の放送」みなさんの一日が充実するようという願いをこめて、できた企画でした。朝のあの美しい音楽と美声で始まる一日。最高ではありませんか!!

「お昼の放送」は、お昼のあの沈黙した暗い時間を明るくという願いをこめてできた企画です。毎週火曜と木曜に放送局員が選んだ美しい音楽を聞きながら食べる給食。インド料理よりおいしく感じてしまいます。

一、二年生のみなさん。お願いします。放送局をつぶさないで下さい。この二つのことを五十年後まで続けて下さい。これが私たち放送局員三年団の一番の願いごとです。

最後に、「GBC」のなぞをときましましょう。GBCとは……Goryo（五稜）Broadcast（放送）の略なのです。

（沢谷 睦子 記）

応援団長として

応援団

初めて応援団に入っていくなり団長をやれといわれ、はじめはどうしてよいかわからなかったけど、昔団員だった人たちに助けてもらいました。

応援団の仕事は、壮行式・中体連陸上とたくさんありました。中でも一番の大仕事は野球部の応援でした。今年の野球部は強くて負けずががんばったので、いろいろな学校の応援を見たり聞いたりすることができました。自分が出せなくなったりしたときに団員がフォローしてくれたり、一般の三年生が手伝ってくれて自分も一生懸命努力しました。そのせいか、野球部が決勝までいき、ついに、優勝しました。

自分達は中体連の試合中にいろいろな応援の仕方を考えたりして少しでも後輩に残そうと努力してきました。自分達は、この応援団に最善の努力をつくし、すべての力をぶつけてきました。これから応援団に入る人も五稜の応援団をますますよくしてもらいたいと思います。

（山形 修平 記）



—卒業生へ—

明日へ向かって力強い前進を!!



学年関係の先生・職員から



意欲と思いやりと

A組担任 齊藤克巳先生

やや大きめの標準服に身を包み、緊張した面もちの入学式が、つい、先日のように思い出される。いろいろな行事を経る毎に年輪を重ねるように、大きくたくましく成長してきた。

三Aが全校に誇れるものの一つに給食の準備と後始末がある。手際よく、協力的で思いやりがある。この経験を生かし、小さなことでいいから人のために役立つことを考えてもらいたい。

これからの社会は、変化が激しく、学校で学んだことが、そのままでは通用しないかも知れない。変化に柔軟に対応するために、いつまでも学ぶ意欲と相手を思いやる気持ちだが、今求められている。



がまんする心、こらえる心

B組担任 浅井庸子先生

卒業おめでとうございます。今までは義務で教育を受けてきましたが、これからは自分の選んだ方向へそれぞれ進んで行くことになりますね。

今までのみんなを見ていて感じたことは、本質的には明るい生徒達なんだけど……という事です。最後に、けど……とつけなければならぬのがチョット残念です。それはどうしてだろうと考えてみると、がまんするところ不足のようです。これからの生活では、思いどおりに行かないことがほとんどでしょう。それらをのりこえて行くには、やりがまんする心が必要と考えます。



個性を生かして

C組担任 古館 勉 先生

卒業おめでとう。三年C組担任として、たった一年間だけの付き合いであったが、三年分は楽しませてもらった(?)。ような気がする。我がC組の面々は実に個性的であった。自分という人間を表現し、他人に認めてもらうためには個性を生かすことは大切なことだと思う。しかし、単に個性的なだけでは容易に受け入れてはもらえないのである。個性をうまく生かすには、まず“けじめ”を持ち、人格全体を他人に認めてもらうことが先決なのである。自分の言動に責任を持ち、また、責任を果たせるだけの強い意志を持って、新しい世界の中で個性を生かして頑張ってもらいたい。



校外学習

D組担任 辰宮 稔 先生

一年生、白い教会をバックに写真している姿、かわいいうまくにおそろいのメガホンを持って大三坂を登ってくる一団、二年生、外人墓地、英国領事館など異国情緒あふれる西部地区探訪、三年生、大きく変ぼうする駅前地区、N.T.T、水産会社、保育園などの体験学習、君達と過ごした三年間の中で一番印象深い行事でした。学校の中で学習したことを発展させ、みんなで計画を実践していく姿を見て、とてもうれしかったです。この恵まれた環境の中で育った君達もやがて函館の中心となるのです。五稜中学校で学んだことを通して、人生を豊かに過ごしてほしいと思っています。



前進あるのみ

E組担任 大村 俊 幸 先生

五稜中学校で生活した三年間も終わってしまいました。この三年間は君達にとって、長く感じたであろうか、それとも短く感じたであろうか。

三年前、五稜中学校の校門をくぐり、そして今、卒業と共にこの校門をくぐることもなくなるわけですが、この校舎で学んだものは一体何であったのか。

君達ひとりひとりには、それぞれの未来に向かって歩み始めたわけであるが、決してあせらず、一步一步大地を踏みしめ前進してほしい。



贈ることば

社会担当 増川 四郎 先生

卒業おめでとう
過去をふり返っても、しょうがないと、よく言いますが、人は、やはり、過ぎし日を思い出すものです。

青春時代の思い出が、心の傷となったり、深い悲しみを伴うものにはしないで欲しいものです。新しい道に、どんな思い出の足跡を残すか、自分自身で考えて、一步一步進んで下さい。



新しい道を

国語担当 井筒泰三先生

卒業おめでとう。「卒業」とは、ことを終えて新しい道へ出発することです。つまり、ことを終えないかぎり、「卒業」とはなり得ません。

みなさんは、今、ことを終えて新しい道へ向かおうとしています。その自信を最大の財産として、これからの道をしつかりと歩んでほしいものです。「もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」「故郷」より

歩くということは、自分の心身を使うことです。いつまでも、健全な心身で、それぞれの新しい道を歩み続けることを祈ります。



相手の心の痛みを わかるおとなになろう

技術担当 杉山春吉先生

限らない、思い出を胸に門出する卒業生のみなさんに心より「おめでとう」の一言を贈ります。卒業にあたり、次のことを良く考えてほしいと思います。人を思いやる、いたわり合う心を失わないこと、また相手の心の痛みを、自分のものとしてうけとめ、心のやさしさ、そして大きさ……そのためにも何事においても最善を尽くすこと、同時に健康な心身こそ、全ての出発点です……

もう一度、心より、卒業おめでとう。



真剣なる人生を

数学担当 村井貞夫先生

三年生のみなさん、ご卒業おめでとう。二十一世紀に向かって力強い一步を踏みだしてくれる事を期待する。「人生は楽なものだとは思はない。また自分は苦しむことは好きではないが、しかし人生は真面目なもので、真剣になって生きられる時、始めて充実した喜びを味はひ得る所と思っている。何もしない一日は、空虚で仕方がない。役に立つたたいは別としても、何か仕事をしないと落ちつかない。」武者小路実篤著「牟礼隨筆(抄)」より 精神的にも、肉体的にも、若い時でなければ出来ない事に真剣に取り組んでほしい。そして人に尊敬され、信用される人生をすごしてもらいたい。



試練の旅

社会担当 松山元彦先生

期待に胸を膨らまして、今、まさに旅立とうとしている若人達よ、出発のベルが鳴った。乗り遅れるな。未来行ききの五稜号が静かに動き出した。戻ることのない試練の旅へ。各々、荷物のお大きさは違っても、使い方次第で大きな力になるものだ。その知恵袋を人生の糧としてたくましく着実に一步一步、生きていって欲しい。人との出会いを大事にし、物質文明に溺れることなく、暖かい心とたくましい身体でこの世の中を乗り切って欲しい。



「創造」への道

美術担当 吉田 安 宏 先生

新しいものを造り始めること、これが「創造」です。新しいものを造り始めるといふことはどういふことでしょうか。難しいことではないと思います。皆さんの毎日の生活は、自分の手でつくられているのです。他人が皆さんの人生を開発したり、つくめることはできません。どんなに苦しくつらくても、自分にだけしか経験できない人生を自分がつくっているのです。それこそ「創造」しているのです。真剣に努力してつくりだす人生こそ、その人の生きがいなのです。また、「創造」への道も開かれると思います。これからの長い人生、ぜひ毎日が「創造的」な日々であるよう祈っています。



“音楽はこころ”

音楽担当 田村 順 子 先生

- ・心の豊かさの中に音楽を感じることができる。
- ・心に余裕がなければ音楽を表現することはできない。

“音楽はこころ”といわれます。
この九年間の音楽の授業を通して、どれだけそれを感じることができたでしょう。ペーターペンやスメタナなど、数多くの作曲家がその生きざまをかけて手懸けた作品。そこから学ぶものは、やはり人生の糧になり得るものでしょう。“こころ”を育てるものはず。みなさんは多くの先生がたから、それを学ぶ機会を作っていた。いたのは確かです。心を磨き、さらに逞しく成長して行って下さい。



「ひとつ」と

技術・家庭担当 木村 以久子 先生

“ご卒業 おめでとうございます”
三年前、皆さんが入学された時、私も五稜中学校 赴任一年生だったので、とても印象深い学年でした。明るく、元気で、人なつっこい子が多い学年で、生き生きしていましたね。“ほんの三年間”大人にとっては、時の流れのほんの三年間。しかし、皆さんのこの三年間の意義深さと成長は、大人の数倍の価値ある輝いた日々であり、歳月の大切さを教えられたと思います。これからも、この三年間で得た、学ぶ心、他を思いやる心、明るく前向きに成長する心を忘れずに、がんばって下さい。いつまでもお元気でね。



自分を大切に。

養護教諭 斉藤 直 美 先生

三年前、ぶかぶかの制服に身をつつまれて入学してきたみなさんでしたが、今では、制服がはち切れそうなくらいに成長しました。何人かは、買い替えた人もいます。この三年間で、体だけでなく、いろいろな面で成長したのでしょう。これからは、それぞれちがう道を行くのですが、制服を買い替えるようなわけにはいきません。自分というものをよく見つめ、そして自分を大切にしている行ってほしいものです。ご卒業おめでとう。



「充実する、心構えを」

理科担当 佐藤 泰治 先生

スポーツを見るときの関心は、試合展開のおもしろさと同時に、試合が始まる直前の選手の姿を見ることである。試合にのぞむ緊張感と、構えの美しさが伝わってくるのです。

三年生は、進路選択に悩み、苦しみながら受験に向けて、着々と学習を進め、卒業を迎えることになりました。葛藤が心の成長をうながしているためか、スポーツとは異なる美しい姿として見えます。

それぞれの進路が違っても、いろいろな困難が予想されます。心を充実するためには、普段の努力の積み重ねが大切です。



贈る言葉

音楽担当 吉田 美奈子 先生

ひとつは生きるために

この先、苦しいことや、つ

ひとつは死ぬために

らく悲しいことがあると思

ひとつは愛のために

ます。

そして

決してくじけず、自分のため

そこにたどりつくための

の人生を、道を、切り開いて

道へ。

いって下さい。自分のために

(泉 優二)

何かすばらしいものが残せる

(チャンピオン・ライダーより) ように……。

事務担当 稲葉 陽子
ごそつぎょう おめでとうございます。いろいろな事があった三年間でしたね。青春はこれからです。目一杯楽しみましょう。

事務担当 泉 郁子

ご卒業おめでとうございます。
人生は、自分の思うとうりには、ならず!!

用務担当 松本 恭右

卒業おめでとう。心身を鍛い、強くてやさしい人になって下さい。

用務担当 近江谷 千春

卒業おめでとうございます。これからも努力を積み重ね、経験を生かし大いに活躍して下さい。

給食担当 澤部 ハルエ

中学校生活と お別れですね。いろいろな思い出や新しい希望を胸にふくらませて、一步一步 歩んでください。

日 直堀 俊邦

卒業おめでとう。

在学中の楽しかった思い出を胸に、何時も明るい心を忘れないで下さい。

礼儀正しく、希望に向かって『アタック』しましょう。

青春とともに

二年C組 佐藤 千草

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。
三年生のみなさんには、今まで委員会やクラブ活動などいろいろなことで大変お世話になりました。本当にありがとうございました。
三年生のみなさんは、三年間の中学校生活を終えると同時に、義務教育九年間を終えるわけですが、今、どんなことを考えていらっしゃいますか。三年間を振り返ってみると、楽しかったことや嬉しかったこと、ときには苦しかったこと悔しかったことなどもあったと思います。それはどれもすばらしい。青春であったと思います。

若さとは人生のある時期のことではない
人は歳月を重ねたから老いるのではなく
人は理想を失う時に老いるのである

これは、サムエル・ウルマンの「青春」という詩です。私は、今卒業していくみなさんに、いつまでも「情熱」を忘れないでほしいと思います。どんなときも「情熱」を心に、前進していつてほしいです。「情熱」を心にもち、いつでも「青春」を感じて生きていくてほしいです。

五稜中を卒業し、これから新しい生活が始まることと思いますが、どんなときでも、いつまでも、生きている限り、自分は「青春」とともにあるということを胸に……

三年生へ贈る言葉

一年C組 有賀 祐 紀

三年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。
僕達が入学してきてからもう、何か月もたちました。入学した時は、緊張して校舎に入ってきた僕達ですが、優しい先輩達が親切に指導して下さいのおかげで、今ではすっかり五稜中学校に慣れ、楽しく学校生活を送っています。

部活動でも、先輩方がきちんとわかりやすく、いろいろなことを教えて下さったからこそ僕達は、腕が上達したんだと思います。それは、どの部でも同じだと思います。中体連が終わり、三年生が部からいなくなると、少しさびしくなりました。けれども、どの部も二年生の先輩方や、一年生とで力を合わせて頑張っていかなければならないと思います。

生徒会の仕事は、今まで先輩方に全部任せていましたが、一年生も選挙に参加できるようになり、一年生三人が生徒会役員に当選しました。僕達は、生徒会役員ではありませんが、できるだけその三人に協力するつもりです。その三人も先輩方が残してくれたことをよりよいものにしていくでしょう。

先輩方、卒業してもこの五稜中学校のことを忘れずに、元気で頑張ってください。短い間でしたが、今まで本当にありがとうございました。

忍耐力を持って

三年C組 吉村明郎

この校舎に通った三年間。今、卒業するに当たって一つだけ在校生に伝えたいことがあります。

それは「忍耐力を持つこと」です。例えば、何か困難に出会った時、すぐに挫折してしまっただけではありません。根気よくその困難に立ち向かわなければなりません。勉強する時も同じです。勉強したくない時でも忍耐力を持ち、結果など気かけないで、自分の努力を大切にしましょう。

人生を生きていくうち、忍耐ほどつらいものはないでしょう。しかし、忍耐ほど大切なものはありません。今の中学校生活にもつらいことはたくさんあるでしょう。部活動にしても、集団行動にしても、日々の学習にしても、忍耐しなければならぬ場面が山とあります。しかし、そこで今まで積み上げてきた苦勞を壊してはいけません。信念をもって最後までやり続けることがとても大切になってきます。そうすれば、途中で挫折してしまうより人間的にも成長していくでしょう。

物事をやりぬく強い意志は人間の成長にとって大切なことです。困難に打ち勝ち、甘い言葉にも負けず、決してくじけず、固い信念を持ち、自分の目標に向かって前進してください。

あなたたちの人生はもう始まっているのです。悔いのない人生を送って下さい。

卒業にあたって

三年A組 金野瑞穂

卒業にあたって、私はこの三年間本当にいろいろなことを経験したと思う。部活とか生徒会とか委員会活動、そして勉強についても。入学したときはこの校舎も見慣れなく、ほとんどのものが新鮮だった。先輩達がものすごく大きく見えたし、初めての印刷されたテスト用紙は異常に難しそうに見えた。友達をつくるのが下手な私は不安のたねがたくさんあった。

こうやって書くときついぶん初々しい感じがするけれども、実際はそんなに慣れなかった訳ではなかった。確かに不安なことはいろいろあったけど、そんなでもなかったと思う。でも、そう思うのは三年もたってすっかりなじんでしまったからだと思う。

私はそんなに大したことはしていないので在校生のみなさんに何か言おうと思ってもなかなかできてこない。だけど、何か言うとしたら今のうちにたくさんさんのことを経験してそれを後で生かせるようにしてほしいと思う。高校でも同じように三年あるけれど、やっぱり中学校でしかできないことはたくさんあると思う。私にはあの時やっておけば良かったということがたくさんあるし、逆にやってよかったと思うこともたくさんある。

私の三年は早くもなかったし遅くもなかった。でも、三年のことは本当に大事なことが多かったということはわかる。本当に後で三年間を生かせるかどうかはわからないけど、できたら生かせるようになりたいと思う。

みなさん今までありがとうございます。

部活動

“一年間の活動報告”



写真	合唱	演劇	吹奏楽	ソフトボール	柔道	卓球	バレーボール(女)	バスケット(男女)	テニス(男女)	サッカー	野球
辰宮・松山 先生	田村・木村(副)先生	上田・杉山 先生	吉田(実)・齊藤(副)先生	増川・佐藤 先生	村井・吉田 先生	高橋・井筒 先生	辰宮・齊藤(副)先生	信田・吉田(実)先生	中谷・浅井 先生	大村・木村(副)先生	杉山・古館 先生

お世話くださった先生方



振り返って

ぼくは、中体連で優勝できて本当にうれしかったが、一つだけ残念なことがある。それは、三年生部員全員が試合に出場できなかったことだ。もう少し余裕のあるゲームをすることができたなら部員全員が代打や代走、守備などで、試合に出ることが出来たと思う。しかしぼく達の実力では、余裕のあるゲームをすることなどとてもできることではなかった。一試合一試合かろうじて勝ち進んで行ったからだ。ぼくは、本当に三年生の部員全員と一緒に試合でプレーしたかったと残念に思っている。

野球部に入ってから三年間、それはとても楽しかった。特に、練習後にみんなで夜遅くまで話をしたり、遊んだりしたことだ。この文を読んでいる人達は「そーかなー 優勝したことだろ」とか思う人もいると思う。だけど、本当に野球部はみんな仲がよかったのだ。たまにケンカすることもあったけど「ケンカするほど仲がいい」とかかっていうじゃないか！あと今だから言えるけど冬期トレーニングの時に走り込みをさぼってすもうやプロレスをよくやっていた。そしてそれを他の部の先生

野球部

に何回も怒られた。その怒られたことも今となってはいい思い出だ。そして、すもうトーナメントやプロレスをして遊んだことから、「チームワーク」という野球において最も大事なことが生まれたと、ぼくは考えている。だけど一つ後輩に言いたいことがある。それは、チームワークを作るとかいつてすもうやプロレスばかりしているとあとで全体に後悔するからそこらへんは、はじめをつけましょう。あと杉山先生と古館先生に見つかるとめっちゃくっちゃこわいから気をつけよう！

本当にこの三年間の部活動は、楽しかった。そして最後に、お世話になった杉山先生、古館先生、中谷先生本当に心から感謝しています。あと、こうはいのみんな、イヤな先パイが来たと思われれるかもしれないけど絶対に中体連は、応援に行くからな！（斉藤 能史 記）

濱本(教)	好守選手
堀	五稜の大砲
斉藤	さすかキャップ
武田	バンドの武田
浜本(遊)	三拍子そろうた男
関子	しゅん運No. 1
高橋(一)	好守備
時田	もしもの切りふだ
吉村	ガッツNo. 1
千葉	名コーチャー
高橋(電)	コンボだよ
谷口	影の仕事人

優勝を目指して

卓球部

僕達卓球部は、中体連と新人戦で優勝するという目標を持ち、高橋先生の指導の元で毎日の練習を頑張ってきましたが、主力選手は二年生が全員なので中体連では「まだ来年がある」と思う気持ちがあるようでした。

中体連当日の日、まず団体戦の予選があり桐花中、附属中、湯川中、銭亀沢中と対戦しいずれも3対0のストレートで勝ち決勝トーナメントへ進みました。決勝トーナメントの一回戦では、旭中を3対0で下しましたが次の優勝候補と言われている深堀中には、勝つチャンスがあったものの今ひとつ実力が及ばず結果は3対0で負けてしまい、成績は3位に終わってしまいました。個人戦でも出場した四人が、またしても深堀中に負けてしまいました。悔しい思いをしました。

これで中体連が終わった訳ですが、僕達二年生は新人戦にも出場出来るので、今度は新人戦へ向けて練習を行いました。新人戦は、まず道南選抜大会があり、その上位2チームが全道大会へ行けることになっています。そのうえ、三年生の先輩方がいなくなっているからチームの実力が試される最初の大事な大会

なので、練習を真剣に気持ちを入れてやらなくてはなりません。しかし、プレーがおとなしいのでよく高橋先生に「ガッツが足りない、一球一球に執念を持ってと注意されました。」僕は、飲み込みが悪いので先生には苦勞をお掛けしたと思っています。

そんなふうにも練習を積み重ねていき、ついに道南選抜大会当日がやってきました。まず、予選トーナメントを順調に勝ち抜き、続く決勝リーグでも強敵八雲中、深堀中、尾札部中を勢いにのり破り、一位で全道大会出場を決めました。全道大会では、さすがに体育館が気迫に満ちていました。最初に予選リーグがあり、広島東部中、遠軽南中を共に3対0で倒して決勝トーナメントに進みました。トーナメントでは一回戦で室蘭虻田中を3対0で破り、二回戦の札幌陵陽中も3対0で勝ち、準決勝の美幌北中も先生の作戦が効き3対0で倒し、決勝でまたも八雲中と対戦しました。結果は3対1で勝ちましたが、とても苦しい内容の試合でした。こうして全道優勝を成し遂げましたが、今度は中体連優勝を目指して頑張ります。

(服部 智行 記)



今という瞬間を大切に！

サッカー部

青春はここにあり！

バレー部

今でも、みなさんの応援が心に残っています。中体連、一回戦の相手は、その年優勝した本通中学校。「3-0」で敗退。

試合には負けてしまったけど、顔も性格も、何一つ似ていない部員たちが、心一つにし、試合ができたことを誇りに思いたい。

サッカーというスポーツを通し、一人一人、それぞれが何かを得ることができたと思います。毎日、花のようなグラウンドで、天使のサッカーボールを追いかけて続けた僕達の、最後の夏は終わってしまった。

後輩たちには、ここ数年続いた一回戦負けをしないように頑張ってもらいたい。同時に、今を楽しみ、今を大事に練習してほしい。「悔いの残らない試合」をするためにも、夢を忘れず、自分達の力を信じて練習してほしい。過ぎた時間は、戻ってこないから

「今という瞬間を大切に」。

最後に、今まで指導してくれた大村・木村（達）両先生、その他沢山の先生方、本当にお世話になりました。（武内 雅浩 記）

しゃべることが大好きな人が集まった部活。それは、バレーボール部・・・

白いボールを追いかけてコートの中を夢中で駆け回って、あっという間の三年間。今、思うと笑顔で過ごした頃、涙で顔をグシャグシャにして泣いたあの頃、いろいろなことがありました。

中体連の前、みんな涙を流したことは何よりも心に残ったことでしょう。中体連は、決勝トーナメントに残ったのですが、ねばり強さが足りず惜しくも敗退。私達は、決して強くありませんでしたが、どこのチームにも負けなかったことが一つあります。それは「チームワーク」です。バレーボールは技術より大切なのは「チームワーク」だと思えます。一・二年生には、「チームワーク」はどこにも負けないチームを作りあげてほしいと思います。私達は、ここに書ききれないほどの思い出を作りました。それも辰宮先生、斉藤先生の熱い指導のお陰です。バレーボールを通して三年間、一緒に過ごしてきた人達は、最高の「仲間」です。

（野又 千枝 記）



これからの為に

テニス部 (男子)

僕が部長になってテニス部の男子は二年生の僕と、一年生の男子三人で始まりました。僕は四人全員が中体連に出られるようにがんばりましたが、結局僕と僕のペアの一組だけが出ました。僕は二年生と一年生のコンビでまだ未熟なのでとても不安でした。しかし、「一回戦だけでも絶対勝とう」という目標を持って試合に望みました。結果は一回戦はかろうじて勝ちましたが、二回戦であと少しというところで負けてしまいました。

僕は中体連に出てみて実力の差は練習量の差だという事を改めて知らされました。試合に勝つためには練習をして実力をつけるともに自信をつけるといふ事が大事だと思いました。

今までの練習を振りかえってみると、毎日一生懸命やってきたかという、必ずそうとは言いきれないと思います。その理由はきつと男子は四人しかいないので他の部活のように、レギュラー争いがないので「自分は試合に出れるんだ。」という、甘い気持ちが心のどこかにあったのではないかと思います。

これからは、みんな一つにまとまって、精一杯練習に励んでがんばります。
(高野 貴之 記)



後輩達へ・・・

テニス部 (女子)

私がテニス部に入って、もう三年近くになりました。長かったようで短かった三年間、いろいろな思い出があります。

その中で一番の思い出は、中体連でした。中体連での目標はやはり三位までの入賞でした。

けれども結果は、もう一歩というところで三位までの入賞はなりませんでした。そのときの悔しさは、みんな忘れていないと思います。そんな思いをもうしないためには、まず練習を怠げずに、少しは厳しく練習していくことだと思います。私達は厳しさに、少し欠けていた所があったと思います。そのために不名誉な成績に終わってしまったと思います。

そのときの経験から、後輩達に、負けたときの悔しさを忘れずにその悔しさを、バネにし強くなって私達の果たせなかつた夢を来年こそは、実現できるように頑張ってください。

そして目標をきちんともって行ってほしいです。最後に今までお世話になった先生方、本当にありがとうございます。
(三上 順 記)



後輩たちへ・・・ バスケ部 (男子)

ぼくたちのバスケットボール部は長いようで短かった3年間いろいろなことがありました。

その中でも一番の思い出は、冬季リーグで総合2位になったことです。新人戦では2回戦で負けてしまいこの冬季リーグに向けて練習してきたのでともしうれしかったです。この勢に乗って「念願の中体連一回戦突破を」と思っていました。

中体連一回戦の相手は赤川中学校でした。優勝候補だったので強いというのみんな知っていましたでしたが最後まであきらめませんでした。前半が始まって大差をつけられてしまい、後半はかなり追いついたのですが逆転はできずに一回戦突破はできませんでした。ぼくたちが一つ後輩たちにお

願いをするとすれば、来年こそ中体連一回戦を勝って、果たせなかった夢をかなえてほしいと思います。

最後お世話になった石井先生、古館先生、マネージャー、それと4カ月間の短い間でしたが信田先生、今まで本当にありがとうございました。

(長内 良介 記)

後半終了のピストルで、私達のバスケット生活の幕がおりました。今、ふり返ってみると、決して楽な部活ではなく、それぞれに個性があり対立も絶えませんでした。この三年間というものは、私達にとって、とても貴重な体験だったと思います。一年ごとに先生が変わり、その先生に慣れたかと思うと、また変わってしまい、迷ってはばかりの三年間の中で、大事な友達も、出来ました。悔しくても一緒にやってきた仲間、互いに助けあった仲間・・・。

私達は三年間、中体連一回戦突破を目指して練習にはげんできました。早期練習も始まり、前より一層力が入りました。やめたいと思った事も数知れずありましたが、今では、何ものにも変えられないものを手に入れた気がします。チームワーク、何を言われても、それをチームのプラスに結びつける吸収力、私達はどこにも負けない立派なチームを作り上げたつもりです。今まで残してきた成績は人に自慢できるほどのものではなかったけれど、私達は後悔していません。後輩達にも、私達のように悔いが残らぬよう頑張ってください。最後に、お世話になった先生方ありがとうございました。(西里 あかね・佐藤 千香 記)

悔いが残らぬよう・・・ バスケ部 (女子)



ドラヤキでさそえ！ 柔道部

ぼくは、柔道部にドラ焼き2つでさそわれて入った。今年の柔道部はダメだとの先輩の予想が当たり、中体連の団体戦では5位、個人戦も二年生はがんばったけど入賞できず、一、三年生も一回戦で負けてしまった。

その原因の一つは、柔道部は練習をしっかりやらないことだ。練習をやっているという遊んでしまうのである。

いくら楽しくやるといっても、遊んでは意味がない。

ふたつめの原因はさぼる人が多いので、みんなの力がつかないということ。一年生は来てるようだけど、かんじんの二年生の姿はあまり見えない。もう少し来て、もうちょっと内容の濃い練習をしてほしい。このままでは一年生にレギュラーをとられる可能性がある。

先生がまんしてあまり退部させないでほしい。

来年の中体連はぜひ優勝してほしい。その夢を果たすべく、キャプテンはみんな以上にがんばってほしい。

あと新入部員はドラ焼きでさそおう。さそった後は新三年生が中心になりアフタケアをしっかりやることだ。一日一日とサボることなく、コッソコ汗を流すことを期待する。(竹内 登 記)



中体連をふり返って ソフトボール部

わたしたち三年のソフトボール部の活動はわずか一カ月くらいでした。中体連に向けてがんばろうということとで三年生が初めに集まりましたが、とても中体連にでれるような人数じゃなかったのでまず初めの活動は、人数集めでした。いろんな人に協力してもらい、何とか試合ができるような人数になりました。集まったのはいいのですが、一、二年生はルールがわからない人ばかりだったので、教えるのに苦労しました。日がたつにつれてだんだん練習がきつくなるのでみんなクタクタになっていました。一、二年は上達が早いので何とか試合にでれるようになりました。

中体連当日、みんな緊張してたせいか、いつもの力が発揮できずに一点も入れないうちに負けてしまいました。やっぱりいざ試合になってみると、一カ月でできたチームと三年間ずっとやってきたチームでは差が大きすぎました。しかしわたしたちにとってはとてもいい思い出になったと思います。試合をしてみても、勝敗よりみんなの一生懸命さの方が大切なのではないかと思いました。お世話になった先生方、どうもありがとうございました。



(青木 千聡 記)

三年間の演劇を通して 演劇部

金賞めざしてがんばった日々 吹奏楽部

今年の演劇はいかがだったでしょうか。練習を始めるのが遅く、練習不足でしたが、それなりに一生懸命演じたつもりです。

私は三月には卒業ですが、今この原稿を書くにあたっていろいろなことが思い出されます。

入部したきっかけは、ただ漠然と演劇はおもしろそうだなということでした。その時は三年生の中に一年生は私一人で、何か抵抗もありましたが、だんだん興味が沸いてきて、入部したのが演劇部で良かったと思いました。

私が学んだ一番大きなことは「演じることの楽しさ」でした。役の性格や立場などを考え、演技できるのが私は好きでした。その度に大きな声をおもいっきり出せるのも魅力的でした。そしてもう一つ学んだことは「協力して演劇をつくること」でした。演劇部は本当に仲が良かったと思います。だからやっていて楽しかったし、協力し合うすばらしさを知ることができました。私はいろいろな失敗もしましたが、全て勉強になったと思います。

演劇部のみなさん、これからもがんばって下さい。

上田先生、三年間お世話になりました。本当にありがとうございました。

(金野 瑞穂 記)

今年の私達は【金賞】と言う名の単語を目標としてきました。

毎日、パートごとに別れてパートリーダーを、中心にロングトーンや曲の練習など一生懸命がんばりました。時には部活内(三年)のもめごとにより休部になってコンクール出場停止になりそうにも、なりましたが一人一人が反省して再度練習し出場することが出来ました。

コンクールでは、金賞と言う目標は達成することが出来ず、銀賞でおりましたが部員みんなですつになり、がんばったので、よかったと思います。

その他の行事では、文化祭や養護学校との交流会がありました。その中でも、文化祭は、自分達の好きな曲に私服を着、一年生が、踊ったりして楽しんだのも思い出の一つです。

最後に、指導してくださった、吉田 美奈子先生、斉藤 直美先生、ありがとうございました。心一つにしてがんばってくれた、後輩達、来年は、私達の達成できなかった【金賞】めざして、これからも一生懸命がんばって下さい。

(平田・本間 記)



心をひとつに!!

合唱部

一心同体

写真部

私達、合唱部は少人数ながらも協力しあってがんばっています。文化祭では、わずか9人でステージに立ちました。結果はあまりよかったとはいえませんが、そんななかでもみんなきつと「何か」をつかんでいたと思います。

文化祭が終わってからは、もうあんな思いはしたくないから、一生懸命に練習しています。そして来年、新入部員がたくさんいてほしい!文化祭では他の部に劣らない立派な発表をしたい!これが今の一番の願いだと思います。

これからは、みんながそれぞれの新しい「何か」をつかんで、それぞれにその「何か」を伸ばしていきたい。それが実力につながっていきばとてもいいんじゃないか、と思っています。

去年の先輩が残して下さった言葉があります。「合唱にいちばん大切なことはみんなの呼吸を一つにすること、心を一つにすることです。」これは本当に私達にとっては貴重な言葉です。だから、この言葉のとおりに呼吸を、心を一つにしていきたいと思います。そして、来年この言葉をそのまます。最後輩達に残していきたいと思えます。(久保 裕美 記)

今年の活動は全体的に見て、数回しかありませんでした。一つは中体連でサッカーと野球の試合しか撮れませんでした。サッカーは一年生、二年生、野球は三年生というふうに分けました。生徒より前に出て、一番良い所で写真を撮ったり、部員が応援団の団長なので部員以外の生徒に撮ってもらったりといろいろあった中体連の撮影でした。しかし、サッカー・野球だけでは文化祭に展示できません。だから港へ行ったり、いろいろな所へ行って撮りました。

二つ目は、文化祭です。文化祭があるから写真部があるといってもまちがいでないほど文化祭は重要です。まず最初に中体連などから撮った写真を現像します。そしてそれを展示するという、言葉で言うとは簡単ですが、いざやってみると難しいもので黒すぎたり、絵が出てこなかったりと、何枚もやり直したりして大変でした。予算の関係で、各自に与えられるフィルムにも限りがあり、また、現像室も、設備がとこのっていないく、どうしても活動が弱くなりました。

最後に松山先生、辰宮先生、いろいろご指導いただき有り難うございました。(三浦 仁 記)



水泳大会に参加して

水 泳

去る七月三日、午後から市民プールで地区予選がありました。そこで標準タイムをきると、金道大会に出場することができます。この大会に出ている人は少なく、私が出た平泳ぎでは、たった三名か四名くらいでした。百メートル、二百メートル平泳ぎの両方とも、標準タイムをきれましたが、ベストが出なく残念でした。

そして、夏休み中の七月二十七日と二十八日の二日間をかけて、北海道中学校水泳大会がありました。一日目の二百メートル平泳ぎは、タイムが悪く予選落ちしてしまいました。しかし、二日目の百メートル平泳ぎは、決勝に残ることができ、六位に入賞できました。

とてもうれしかったです。

全道中体連が終わってから、九月四日に函館市中体連がありました。種目は、前と同じで百メートル、二百メートルの平泳ぎです。レースの結果は、一位と二位でした。あまり満足できないタイムでした。どの大会でも、泳ぐ前は緊張して、体が固くなってしまいました。大会に出る人が私一人で、リレーを組むことも不可能でしたし、学校別の順位にも、もちろん入れません。来年は、百メートル泳げる人には、大会に出てもらいたいです。(小笠原さおり記)

来年こそは・・・

剣 道

僕は、部活動としては活動していませんが、皆、今年も是非、中体連に出させてほしいということで、団体戦を組むまで人数が足りないの、個人戦にのみ出場させてもらいました。僕は三人は、道場は違うけれど、剣道にかける信念は、全員同じです。

僕はこの日のために、それぞれの道場で、苦しい練習をしてきました。目標は「全責一回戦突破！」で、その想いは、だれにも負けなかったと思います。そしていよいよ中体連を迎えました。一年生の石黒さんは、体は小さいけれど、実力は充分、一回戦はシードでしたが、二回戦も勝ち抜き、よし！この調子と思いましたが、準々決勝で準優勝した選手と当たり惜しくも敗れてしまいました。

二年生の輪島君は、弘道館という強力チーム出身というだけあって実力は充分。しかし、惜しくも一回戦敗退、そして僕は、一回戦は突破しましたが、二回戦で延長の末、敗れてしまいました。精一杯頑張ったのにやはり中体連の壁は厚いなあと実感しました。しかし、来年は、僕等は三年生、もし新入生の中に剣道のできる人がいたらその人達も参加してもらい、運が良ければ団体戦、少なくとも個人戦には出場し入賞目指して頑張りたいです。(吉田 潔 記)



平成3年度
卒業生



思い出を
このページに
残して

さようなら!
五稜!!



支度

何の匂いでしよう

これは

これは

春の匂い

真新しい着地の匂い

真新しい革かわの匂い

新しいものの

新しい匂い

匂いのなかに

希望も

夢も

幸福も

うっとり

浮かんでいるようです

ごったがえす

人いきれのなかで

だけどちよっぴり

気がかりです

心の支度は

どうでしょう

もうできましたか

(黒田 三郎による)

A組

オレたちはチームだ!!

担任 齊藤克己 先生

三年A組の最大の思い出は、なんといっても修学旅行です。東北への旅は夢と希望で満ちあふれていました。旅路は、大体はバスでした。バスの中では、一人一人思い思いに時を過ごしていましたが、いざ、カラオケの時になると、一致団結した盛り上がりようでした。ここに三年A組のよいところが、よく表れていたと思います。

一致団結といえば、修学旅行の時だけではありません。文化祭の合唱コンクールの時もそうでした。練習していた初期のころは、みんな中学校生活最後の合唱コンクールであることを忘れていたせいか、毎日のように先生に注意されていました。

しかし、コンクールが近づくにつれて、だんだんと取り組みに熱が入るようになってきました。

そしてコンクール当日では、一致団結し合唱しました。結果は、賞には入れませんでしたでしたが、思いっきり声を出して満足しました。この一年間、みな力をあわせ、乗り越えてきました。

苦しい思い出も、たのしい思い出も、三年A組の大切な一コマです。 (大滝 陽一記)

●一人一言●

(男子)

「いまを生きる」この言葉のような生き方をしたい。

全てがデジタルな世界でも僕はアナログでありたい。

I can't see anything in the dark sky

心を閉じこめないで、今、夢ははじまったばかり

天龍//東京ドームでホーガンより俺と戦え!!

See You Again !!

PUNKS NOT DREAD~言いたいことは言え~イヤな奴は殴れ!!

一触即発

池田	展之
大滝	陽一
長内	良介
笠原	晴史
加藤	健太郎
加藤	譲司
齊藤	能史
清水	優行

POWER TO THE PUNKS!!

人生楽ありゃ苦もあるさ

「花と天使」……ぼくは何かをつかめそうだ!!

時の過ぎゆくまに

One for all all for one

柔道部に栄光あれ~~~~~!

交通事故に気をつけて、みんな仲良くすごしましょう

オレたちはチームだ!

(女子)

「その壱」 毎月第一土曜日いつもの所で:OK・GYUHHH♥

「その貳」 OK・BABYその日は唄って食べて遊ぼうネ♥

さようならまたいつか会える日まで……

今、この瞬間が止まってくれればいいのに……

「その参」 一次会はB・BOXで唄って踊ってIT'S CUTE♥

バイバイ金野さん。あなたともお別れね。

さようなら小西さん。またどこかで会いましょう。さようなら。

またいつか、どこかで会う日まで……

BYE BYE

「その四」 やっぱり二次会は「O.P.S」のモカパフェで決まりだね♥

三年間ありがとう、さようなら。

すれちがうだけでもうひかれてたもしやの期待ふるまいて……

気持ちを隠さないで素直でいたい……

大切なものは素直にならなきゃ探せはしないから

「その伍」 土曜日は唄って飲んで思いっきりもりあがろう♥

高橋 竜弥

竹内 登

竹内 雅浩

中村 淳一

能登 貴之

平沢 孝雄

樹田 悟至

道下 真也

青木 千聡

池田 真妃

石本 綾子

岩崎 幸子

小泉 美恵子

小西 美也子

金野 瑞穂

坂井田奈津子

笹谷 ひろみ

志村 友美

戸澤 吉美

西本 めぐみ

福森 真由美

山内 晶子

山本 妙子

B組

週末をこえて

担任 浅井庸子 先生

今は昔。ある中学校に異様なクラスがあった。そこに棲む者は一人一人の個性が強烈で一見バラバラだったが一つの集団として見ると不思議な調和をみせていた。「ホーッ。」と叫びながら教室を飛び出して行く者。世にもおぞましい奇声を発してさわぐ者。アゴをはずす者。これらの者たちが一つの教室に共存していたのだ。始業のチャイムが鳴る。誰も着席しようとしなない。動かない。まだ動かない。「先生来たよー。」さわめきの中に声が響く。流。と、肉の群れが一斉に動く。しかも速い。全員が着席するのに三秒とかからない。こういう時は皆、飢えた肉食動物の動きになっていた。この、異様な集団を統率、総指揮していたのが、時の女帝、浅井庸子その人であった。彼女の技量は同年代のそれを軽く凌駕していた。その小柄な体には無尽蔵な力を有していたし、柔和な顔に浮かぶ微笑には何かあると鬼の相に豹変しそうなこわさも秘められていた。又、女帝は不思議な魅力、天性の吸引力を持っていた。

クラス内外問わず色々な生徒達に好かれ愛されていたのであった。これだけの事を聞くと、ただのチャランポランなクラス、と思う人がいるかもしれない。実はそのとおりで。しかし、彼らが一致団結した時の力には目を見張るものがあった。文化祭、合唱コンクール。誰もがB組の優勝はないものと思っていた。なぜなら前年度のそれがあまりにもおそまつだったからだ。しかし彼らは予想を裏切った。B組も金賞。この異様な集団はこのような偉業（異業？）を成し遂げているのである。本来、学校とは教室とは仲間と苦業を共にする場であり空間である。しかし、彼らにとってそこは地上の楽園。ジャングリラ、それ以外のなものでもなかった。

足達天下士著 五稜全史第一巻 「週末を超えて」 叙説第三章より抜粋

●一人一言●

(男子)

一言、もうこの世に思い残すことはありません、さようなら。生涯悔いなし。
己の胸に刻みこんでいく、これからも……

我が道、いい事も悪いこともいろいろあるけれど、これからも歩き続けたい。

さようなら

よい思い出をありがとう……皆の事は決して忘れない。また会う日まで……

さらば青春No.1

たのしくて たのしくて たまらぬという日が いつかくるだろうか

さらば青春No.2

秋本 誠一

足達 天下士

石川 大輝

石澤 政勝

上坂 亮介

小田 竜男

小野 雅司

酒井 義則

さらば青春No.3

五十年後のキミを今と変わらず愛しつづける。

我が生涯に一片の悔いなし

泣くのがいやなら さーあ歩け。

健康に気をつけて 頑張ろう。

オレのばあちゃん黒人好きだぜ。

どこかで見かけたら、声でもかけてください。

時には傷つき、時には喜び、肩をたたき合った あの日…

さようならば、別れの言葉じゃなくて、再び会うための恋の約束…

(女子)

毎日が新しいスタート。〇〇〇〇 〇〇〇〇、いつかまた会いましょう。

青空を駆けぬける春風を合図に、それぞれの地図を手に旅だつ。

「幸せな恋を」というのならどうか教えて、貴方なしで何処にあるの？

あの雨の降る夏の夜の遠くに見えた貴方の姿が今でも忘れられないです。

今の光は無限に届く気がする。いつかは会えなくなると知っていても。

いつでも答えは愛してる。愛してる。後ろむき 背中から愛してる。

たくさんさんの友達・先生、いろいろな思い出をありがとう。

今はどんなことを言われても負けない。だって運命より貴男の方が大事なもの。

あの想いの強さを 後悔でも憧れでもいいから 心から受け止めたい…

今はつらくても、いつか笑いあえるそんな日がくることを…

どんなに離れていても、どんなに距離があっても 私の心はかわりません。

素敵な貴方を胸に刻みつけて 最後にひとりで泣こうと思う。

放課後のグラウンドは あなたを見ていられる 最高の場所。

初めて話を交わした日、慣れた手つきで 煙草をくわえた貴方がまぶしい

恋をしながら覚えた淋しさだから、誰よりも幸福です。

あの思い出を再び現実にするために、もう一度あなたのもとへ戻りたい。

高橋 友和

滝本 亮

津谷 雅敏

野口 嘉弘

福田 淳

堀 孝広

森川 謙嗣

山崎 伸也

渡部 弘信

阿部 久美子

伊林 綾子

大村 尚美

佐藤 千香

下田 めぐみ

常楽 敦子

滝川 裕子

田口 知陽

武川 友佳

対馬 梨恵

中 恵子

西里 あかね

野又 千枝

平田 珠美

本間 亜美

水尻 千晶

C組

航海と後悔

担任 古館 勉 先生

二年生の時、一緒にB組船に乗り込んで船出した仲間が、三年生になり、今度はC組船に乗り継ぎ航海し、どうやらこうやら今まできました。途中、船頭さんもバトンタッチし、(吉田先生から古館先生)後残す所わずかで目的地に着きます。最初、真新しいと思つて乗り込んだ船でしたが、航海をして行くにつれ、板がはがれたり、水もれがしたり、ペンキがはげたり、暗礁にのり上げそうになったり、横波を受けて、何度も沈みかけた事がありました。時にはおだやかな波にゆられ、静かな時を過ごした日々もありました。それぞれ心の中に、思ひは、残っていると思います。泣いたり、笑ったり、反発したり、その度に船頭さんが、あっちこっちと走り回ったり、軌道を修正したり、何度も船を降りたいと思つたことでしょう。でも、最後まで船をおりず、私達を目的地に届けてくれようとながらばっている姿に、この場を借りて、心からお礼をいいます。(古館先生、ありがとうございます。三年間、縁あって机を並べた仲間どうし、もっと助けあい、一つの物にトライしても良かったのでは、自分の信念を持ち、行動することも大事だけれど、時には周りと一緒に何かに向かって進む事があっても良いのでは!! 果たして、私達にそれがあつたのだろうか? 一つの航海を終わる私達は、それを経験にして、この先自分らしく生きていこうじゃないか/失敗をおそれては何も出来はしない。

先生が前に受け持ったクラスの生徒が、「このクラスの担任になつたんだから、今度、どんなクラスを受け持ってもきつと耐えるだろうね。」って、書いてありましたが、その人は、まだまだ甘いと思います。なぜならその言葉を私達が今、先生にそっくりそのまま言いたいからです。

●一人一言●

(佐藤 望 記)

(男子)

あの頃オマエは優しさをくれた。あの頃オマエと夢をおいかけた。このクラスのリーダーは俺だ。

初心の心と闘魂

ぼくは死にましえん!!

いったい俺たちは自由という本当の意味をどれだけ深く知っているのか?

喜怒哀楽いろいろあつた三年間

明日へ向かって LET'S TRY!!

風塵乱舞

伊藤 一大

氏家 慶二

長内 一将

長内 広司

葛西 大輔

斉藤 貴生

佐々木 康寿

佐藤 秀和

大事を済すには必ず人をもって本となす!!

雨上がり、色の濃い青空の下、プロペラを鳴らし飛んでいく飛行機を見た。

努力根性義理人情

忍耐と和

おれはゴローじゃねー 野口雅博じゃ!!

悔いが、たくさんあった三年間

心を大切にして人の気持ちを知る

オレの愛する女は、ただ一人!!

語言少なく善く人に下り喜怒は色に形わさず。

(女子)

クロネコがニャーと鳴いたらまた会えたらいいね

夢だっただけで寂しい時ほど遠くの愛が見える。

手に入れる分だけ失うものもあるけれど、願うだけじゃ何もかなわない。

あなたのやさしさに、素直になれなかった自分にさよならしたい・・・

きつとはかない激しさは今も同じだから

最後まで自分の弱さに勝つことができなかった。

あの時のあなたが、一番輝いていた。

長い様で短い三年間、努力したつもりでも悔いは残る。

過ギニシ薔薇ハ タダ名前ノミ 虚シキツノ名ガ 今ニ残レリ 薔薇の名前

あいつに寄りそい、あいつを見つめ、あいつだけのために生きる

何もかも全て思い出す、時の流れさえも越えてしまう程に・・・

生まれ変わるために、人は誰でも涙を流す LONELY NIGHT・・・

さあBABY、熱く燃えるぜ BY

死んでるみたいに生きてくれないだけ

ほんの少しの間の思い出を忘れることはないでしょう。

あなたに出逢えたそのことだけが、私にとって一番の奇跡です。

白鳥 伸明

神 裕介

滝本 隆治

武田 光博

野口 雅博

濱本 教克

村井 大吉

山吹 匡

吉村 明郎

青柳 由衣

秋本 祐美

今田 圭名子

岡村 のぞみ

木村 ルリ子

小西 絵美

斉藤 ひろみ

佐藤 望

沢谷 睦子

柴谷 一美

島村 弘美

新谷 恵里

高橋 香織

平賀 瑞穂

町屋 弘美

諸井 菜々

D組

Mr辰宮&三年D組の仲間たち

担任 辰宮 稔 先生

ビートルズが好きで、何でも一番が好きで、「成せば成る」という言葉が大好きな先生は誰でしょう？そ、そうです！三年D組の担任Mr.ポール・辰宮先生です。Mr.ポール・辰宮先生は、バレー部の顧問なんです！（人は見かけによらないというでしょ。）だから、球技大会のときには無意識のうちに熱が入ります。バレーが上手な理由はきっとこのせいですね。

Mr.ジョン・辰宮率いる三年D組のゆかいな仲間達は一人一人が個性あふれる豊かな生徒です。生徒達は、頭の良さはナイスで運動神経はベストです。学年で、テストの平均点はたいてい一番です。Mr.リンゴ・辰宮先生は、男手一つで二年間も三十三人の子供を大切に育て、ここまで成長したのです。私達の成長を喜んでくれるのは父親同然の先生でしょう。

さて、学級紹介の花といえば賞状自慢です！これはもう、D組は得意中の得意です。二年間で、球技大会では女子優勝・準優勝で、壁新聞コンクールは二年連続銀賞なんです。体育大会も二年連続総合の部で優勝、女子の部でも連続優勝です。これらはやはり、私達の努力と、陰で見守ってくれている、辰宮先生のおかげでもあります。

辰宮先生の特技は、給食時間に見ることができません。突然左手で給食を食べます。ポールの好みは、うどんです。いつも、おかわりを求めてきます。こういうおちゃめな辰宮先生と二年間一緒に過ごせて、私たちは幸せです。

これで九年間の義務教育も終わり、Mr.ジョージ・辰宮は、迷えるかわいい小羊を手放さなければならぬわけですね。これからは、高校生活と就職と二つに分かれてしまうわけですが、辰宮先生とD組のみんなと過ごした二年間はきっと忘れることはないでしょう。

(岡田 裕生 記)

● 一人一言 ●

(男子)

精神一到何事か成らざらん。

男女平等の時代だが、力は女子の方が強い。

俺は硬派だ！。

ああ男にはつらくて長い二つの道が。

いつまでも自由でいたい。

愛も底無し 力も底無しだった三年間!!

おまえの笑顔が好きだ・・・誰よりも・・・

長かったようで短かった三年間。

浅倉 徹

東 大輝

小川 浩平

河原 伸彦

木村 保之

佐々木 健隆

高橋 一史

高橋 光洋

未来は決まっていらない。運命は自分で創り出すものだ。
地球は俺を中心にまわっている。

おれは忘れない。・・・あの時のおまえを。

俺はヤリチンとよばれ、ラキオとよばれ、イモラッキーともよばれた。……………

真実は、とてつもなく激しかった愛せば愛すほど苦しくなる。

失って初めて、お前の大切さに気がついた。

入学式が昨日のように思い出される。あっという間の三年間だった。

未来の世界フライチャンピオンはオレだ！

辰宮先生、お世話になりました。

(女子)

瞳に映るあの人を見ていた…。まぶしくて息をするのも忘れるくらい。

世界で一番好きだったあの人を忘れさせてくれたのはあなたでした。

好きじゃないなんて嘘をついて笑っててもやっぱり貴方のことが好きでした。

生きてるうちが花なのよ

戻りたくないあたたかな時間。一番好きだった君の写真が笑いかけてる…。

もう一度その笑顔を、やさしさを、私だけに向けてほしい…。

そんな瞳をして黙らないでよ。ずっとずっといちばん思い出の人。

わたしにとって、あなたに会えることが何よりのささえでした。

大切なものは、求めれば求めるほど遠ざかってしまうものですね。

やさしい言葉が欲しくて何度も何度も苦しめたけどその数だけあなたを愛してる

あなたに会った。あの瞬間に戻りたい…。

どんなに辛い事や、悲しい事があっても、あなたはいつも輝いていたね。

思い出の中の貴方は、まだ私の心にまぶしく静かに残っています。

誰が何を言っても何がどう動いても今はあなただけがとても好きです。

私らしい愛しかたで貴方だけを見つめ続けたい…。

思い出の中にだけあいつがいる。思い出の中にだけ伝えなかつた言葉がある。

多田	徳広
千葉	進
浜本	進也
藤根	慎二
星野	廣史
岡子	志信
三浦	仁
柳谷	誠一
山形	修平
岩田	洋子
岡田	裕生
岡田	美奈子
川村	友紀
小杉	愛
小林	彩乃
佐藤	宏美
高井	紀美子
田中	綾子
田原	広美
松浦	奈津子
松田	佳恵
三上	順
芳村	冬子
若林	光子
渡辺	佳子

E組

3-Eよ、永遠に・・・

担任 大村俊幸先生

私たち3年E組は、メチャクチャ明るく、とにかく明朗活発で、そして男子女子とても仲のいいクラスです。ふだんは一人一人好き勝手にやっていますが、体育大会や球技大会、合唱コンクールなどのクラス全員参加物になるとみんな団結し、一つとなって頑張り合い、けっこういい成績を今まであげています。ので、賞状は一応多いと思うんですけど・・・。この中でいちばん必死になってやったのは、合唱コンクールだった。「2年連続金賞」を狙っていたのだが、おしくも銀賞に終わってしまったのでちょっと悲しい。

そんなことはさておき、この2年間私たちがうまくまとめあげたすごい人は、あの「大村先生」だったりする。いつも冷静に落ちついて話をすることができるところからこまでみんなついてこられたのだろう。まだたくさん書きたいのだが、この紙全部にはおさまらないくらいあるので、今回はこの辺で終わりにしたいと思う。3-Eよ、永遠に・・・。

(七戸 明美 記)

●一人一言●

(男子)

休みばかり多かったけど、思い出に残る中学校生活だった。

私はおまえをそんな子に育てたおぼえはない。ごめんよ父さん。ごめ。あ。つづく

きみといると、優しくなれるし、わがままになるし、つくづく恋だと思う。

長くて短い三年間だった。

タラちゃんといくらちゃんは仲良し。

何事にも一発入魂。

あの時アイツが泣いていた時、俺は慰めの一つもできなかった。

石沢	政治
石田	智一
大森	暢彦
小川	竜一
菊池	雅之
小林	恒良
佐藤	明彦
館山	繁

TRASH IT 「カス」は消え去れ。

寺尾のつっぱりは強い

明日や希望よりも今に甘えてそこにいたかった by マサロック

THE MAD CAPSULE MARKET'S ヨモットハゲシクナツテクレ!

マーチャン 学校のトイレで すかしっぺこくな!

もどりたい、ただそれだけ

はい金ティーンと聴いてる? 頭ばかりでも体ばかりでもダメ。心が一番大切

いい夢見してもらったよ アバヨッ!!

学習面、生活面など全ての面において充実した3年間だった

(女子)

I SEEK MY DREAM EVERYWHERE SEE-YA

口にだしては言えないけど もっと一緒にいたかったね。

さよならだけではさみしすぎるから、E組のみんなへおくる言葉 BYE・BYE

こんな寒い日はいつもそばで あなたのぬくもりを感じていたい

君の その微笑だけが 悲しみを とびっきりのジョークに変えるのさ 享介♡

たとえあなたが どこにしようとも、忘れたくない これ以上

DON'T GIVE UP YOUR DREAM

私のバラの花のような真赤なハートを、あなたはどうか受けとめてくれますか?

夢は 失くしてもまた 見つければいい 探せばきっと

JUST PLAY YOUR DREAM COME TRUE

必要とされて愛されたい 幾千年の時を経て永遠の夢となるように

貴方をみつめている人がいた事 貴方を愛する人がいた事を忘れないで

恋より素敵なことください ときめきが哀しみに変わるまでに

過去も未来ももういらぬ 愛は迷わずすべて与えること

夢を信じて疾風飛行 きっと 永遠に

見えない未来を恐れるのではなく 見えないことに勇気づけられて

田中 陽二

辻崎 久陸

畑沢 正樹

蒔田 和稔

増子 涼

丸山 滋

村川 友幸

山田 直樹

吉岡 竜也

池田 志穂

小川 晴恵

黒嶋 芳菜子

小林 恭子

七戸 明美

白井 一美

須藤 綾子

田中 麻梨絵

坪川 裕美

照井 奈々

鳴海 芳子

船越 直美

牧田 由記子

三國 真代

村山 ひろみ

山田 理恵子

第31回五稜中学

文化祭

函館文化会賞



10/4.5

CHALLENGE
FOREVER

函館文化会賞 受賞作品

1年 斉藤 真由美

修学旅行

5月11日～14日

思い出の 旅日記



一日目 (五月十一日―旅立ち)

見知らぬ街へ

三年D組 三浦 仁



五月十一日。この日はいつもとちがった朝だった。目覚まし時計でなければ起きられなかったのに、この日だけは自然に目が開いたのだ。なぜなら、今日は修学旅行一日目なのだ。しかし、こんなにうまく起きられたのも珍しい。

函館駅前に七時二〇分に集合する。そしていよいよ汽車に乗りこむ。あれよあれよという間に、七時五三分、出発の時間だ。みんなはいろいろなことを考える。「旅館はどんなところだろう。見学場所はどんな所だろう。これからどんなことが起こるのだろう。……」こんなことを考えている間に、列車は青函トンネルの中に入っていた。車内ではトランプをしたり走り回ったり様々だ。青森に近づくにつれて、酔い止めの薬を飲む人が目につくようになった。この光景を見ると、つくづく長い旅が始まるんだなあと考えた。

青森に到着。ここで弘南バスに乗りかえ、美人のバスガイドさんと一緒に、東北の見知らぬ街への楽しい四日間の旅が始まった。

一日目 (岩手県立博物館―宮沢賢治記念館―衣川荘)

岩手の人に早変わり

三年B組 伊 林 綾 子



一日目、修学旅行もまだまだこれから。汽車に乗って、バスに乗って初めて見学したのが、ここ盛岡の岩手県立博物館。

この博物館は岩手の地質、考古、歴史、民俗などの資料が展示されていて、岩手県の自然と文化が、一発で理解できるようになっています。とてもきれいで大きな建物だったので、中には体験学習室というものがあった。そこは、古くからの人々が生活のなかで使用してきたという民具などがあって、実際に身につけたり、遊んだりできるようになっていて、東北の人間にタイムスリップしたような楽しいひとときだった。「写真のネッチャンかわいいべさ。」

その他の展示室の資料の豊富さや広さに、私は感激した。もちろん、たいへん学習になったことはいまでもない。

見学を終えると、バスは宮沢賢治記念館、そして最初の夜を過ごす旅館「衣川荘」に向かった。この旅館は、部屋からの眺めが最高で、良い旅館だった。

二日目 (五月十二日―猊鼻溪で舟下り)

魚を供に舟下り

三年C組 平 賀 瑞 穂
三年E組 山 田 理 恵 子



顔をしかめて熱唱している船頭さんを横目に、舟は魚と一緒に進んでいたのは半年前。幸せになろうとさい銭箱に舟からお金を投げたのも半年前。魚をつかもうと必死だったのも半年前。写真を撮る時カメラ目線だったのも半年前。お金をだして石を買って、それを岩の穴に投げたのも半年前。川に石投げして、飛んだ回数を競ったのも半年前。舟をゆりかごにして寝ていたのも半年前。校歌をすばらしく下手に歌ったのも半年前。描かれた板の顔の部分に自分の顔をはめて写真を写したのも半年前。舟酔いするのではないかと薬を飲んだのも半年前。船頭さんが妙にのってガイドしてくれたのも半年前。添乗員の渡辺さんとなりの席をうばいあったのも半年前。修学旅行を終えて、学校に帰ってきて描いた絵が「げいび溪」だったのも約半年前……。

十二月、受験勉強の合い間に思い出すのは、半年前のあの日の数々の出来事。

二日目 (平泉中尊寺―グリーンピア田老)

まばゆい金色堂

三年B組 渡部弘信



初夏の太陽が照りつける中、僕達一行は汗だくになって、急な月見坂を一步一步登りつめました。

そこには、中尊寺の中心的建物「金色堂」がありました。外観からはただのお堂のように見えます。しかし、好奇心をもって中に足を踏み入れて驚きました。金箔がまばゆいばかりの光を放っているのです。それは想像を超えるものでした。ここに何と藤原氏が静かに眠っているというのです。いわばお墓のようなものです。不気味というより、そこには神秘的なムードがいっぱいに漂っていました。それでガイドさんの説明もつい神妙に聞くことになりました。

見学が終わって、合格祈願などのお守りを買っていた人もいました。しかし、この時は土産を買う時間でもあったことから、坂を急いで下りて、土産物屋へ直行する人も多くいました。店内は、あの中尊寺の静けさとは別世界のように、土産を買う仲間で大変な賑わいでした。これも思い出の一つになっています。

三日目 (五月十三日―龍泉洞)

自然が造った龍泉洞

三年A組 山内晶子



私達は岩手県の龍泉洞に行ってきました。洞窟の中は、真っ暗闇なので最初のうちは転ばないようになを向いて歩きました。気温もやはり低く、外よりも少し肌寒かったです。

洞窟の中は、別の世界にきたような変わった様子で、両側は白っぽくでこぼこした堅い岩壁でできていて、さわってみると湿っていて冷たかったです。それに天井はとても高く、つららのような鍾乳石がいくつもありました。通る先々には何か所かの地下水が、何十年も一滴一滴と滴り落ち、それがだんだんと大きな池となってきたということです。この自然の力というものはすごいものだあと改めて思い感動しました。あの九十メートルもの深さがあるのに、底まで見える透明な水を見ると、吸いこまれていきそうな感じがえました。

この龍泉洞には、長い急な階段があったりと少し怖いところもあったが、とても良い思い出に残る場所になったと思います。

三日目（盛岡・手作り村）

「焼いてみようよ。」

三年D組 佐藤 宏美



三日目には、盛岡の手作り村を訪れた。手作り村では、自分の手で「豆せんべい」を焼くことができた。でも、せんべいを焼くには長い列に並ばなければならなかった。せっかく自分の番に回ってきても、次から次へと大変な仕事を待っていた。だんご状のものをのべしたり、焼きすぎないように時計を見ながら、何度も型をひっくり返したりした。しかし、焼きあがるのを楽しみに根気よくがんばるのを楽しみに根気よくがんばられてくれた。みんな楽しそうだった。

展示資料室には、名産の南部鉄器や漆器などがあった。また村の中には、鉄器を実際に作っているのを見られる所もあった。そして、作られた鉄の風鈴がリンリンといろいろな音で鳴っていてこちよかった。

手作り村で記念写真をとった時、にわか雨が降り出して私達のクラスは雨の中の撮影となったのは残念であったが、村は楽しかった。

三日目（岩手山麓国民休暇村で体験学習）

思いがこもった「馬コ」

三年E組 吉岡 竜也



いろいろと見学し、旅館に着いてほっとしたのもつかの間、我々を待っていたのは、郷土玩具などを製作する体験学習であった。

湯飲み茶碗、こけし、チャグチャグ馬コの三つのグループにそれぞれ分かれた。みんなの心の中には上手に作れるだろうか、という不安と緊張感でいっぱいであったのにちがいない。職人さんの説明を聞いたあと、いよいよ作業が開始された。

「馬コ」では、まず口を塗り、次に鼻を塗り、そして耳を塗って色づけが終わった。そこまでは順調に進んだが、目をかく作業で苦戦をしいられた。見本どおりの目をかこうとしたが、かけそうにないのでつまようじを使って点のような目にした。次に尾や手綱などをボンドでつけた。ようやく「馬コ」が完成し、箱に名前を書いてその中に「馬コ」を納めた。

心の中は、完成したという安心感と満足感で満ちあふれていた。僕はこの「馬コ」を一生の思い出として飾っておくつもりだ。

三日目（休暇村・夜のレクリエーション大会）

レクに燃えた人・人・人……

三年C組 平賀瑞穂
三年E組 山田理恵子



あの日のMちゃんを止めることのできる者は誰もいなかった……。カラオケ、ダンス甲子園、手品、ジャンケン大会、早飲み大会……モロモロやってくれたみなさん誰もMちゃんに勝つことはできなかった。一瞬の間、シラケ・笑い……どれもMちゃんはすばらしかった。A「女子のみなさん、さがつて下さいって何だったんだろうね？」B「わかんない……でもみんなハイテンションだったよね。」

A「うーん。みんなMちゃんがかわいそうになったか、ステージに出てきてくれたんだよね。」

B「男の友情だよねえ。」

A「最初は、かえ歌を歌うはずだったんだよ。」

B「へえ、そうなんだ。でも面白かったよね。ある意味で。」

A「まあね。でもレクってMちゃんくらいしか覚えていない……。」

B「でもダンスもすごかったよ。」

A「あー、言われてみれば……。」という感じで二人の話が弾むのだ。

四日目（五月十四日―マイランド尾去沢―楯園）

修学旅行の思い出は不滅だ！

三年B組 阿部 久美子



とうとう修学旅行最後の朝がきた。連日連夜さわいだにもかかわらず、さわやかな顔で食堂に集まった。なかには半分眠っている人もちらほら。しかし、元気に最後の見学地、尾去沢へ出発した。

鉱山の坑内に入るとき、携帯用説明器を受け取り、見学が始まった。当時の仕事をしている人の人形がやけにリアルに動いていた。おもしろかったのが、光り輝いていたタイムトンネルだ。レーザーか

何かの光線がでていて、白い物が紫に光るのだ。歯が光る。つめが光る。ポケットの中が光る。その他くつ下、えりなどが不気味なほどよく光った。もう人を見るたびによく笑った。（自分もおかしくなっているのに気づかないで）

こうして、最後の見学を終え、懐かしの函館へ向かう汽車に乗りこんだ。―函館到着。無事行動日程を終了。中学校生活の思い出の中で、一番大きな位置をしめる四日間が終わった。この修学旅行が今でも鮮明に思い浮かぶ。きっといつまでも忘れないだろう。

栄誉をたたえて

平成三年度受賞一覧

体育行事

《中体連表彰》

。野球

函館地区大会

優勝

渡島大会

準優勝

。ソフトボール

。卓球

第三位

。新体操

個人戦 笹谷ひろみ

全道大会出場

(三年)

。水泳

個人戦 小笠原さおり

一〇〇M平泳
二〇〇M平泳

優勝(二年)
第二位

。陸上

魚住 章豊

一〇〇M

第五位(二年)

西口しのぶ

八〇〇M

第三位(二年)

戸島 潤

一〇〇M

第七位(二年)

伊藤絵美子

一〇〇M
一〇〇MH

第七位(二年)

〃

二〇〇M

第三位(〃)

《全道硬式卓球選手権》

加藤 静 一〇〇MH 第七位(二年)
木下真弓 八〇〇M 第三位(二年)
竹内雅浩 八〇〇M 第八位(三年)
阿部久美子 砲丸投 第五位(三年)
小林恭子 三種競技B 第四位(三年)

カデットの部

。大高 尚

第三位(シングルス)

。増川健二

三浦一弥 組 第三位(ダブルス)

《第七回道新杯 全道中学校選抜卓球大会》

全道優勝

国体

。服部智行(二年) 大高 尚(二年)
。増川健二(二年) 西口 勇(二年)
。三浦一弥(二年) 田原祐介(二年)
。蒲生 豊(二年) 棚上大助(二年)

文化行事

函館市青少年芸術教育奨励事業

。音楽部門 青柳由衣(三年) 銅賞

吹奏楽コンクール

地区大会 銀賞

函館デザイン協会公募展

―第九回 ビジュアル公募展―

齋藤真由美(二年) 函館文化会賞
田原祐介(二年) 龍文堂印刷賞
田中陽二(三年) 入選
広部貴昭(二年) 入選
高橋祐史(二年) 入選
池田志穂(三年) 入選

第三〇回全函館児童生徒書畫大会

村本裕明子(二年) 函館教育書道連盟賞
柏 充(二年) 金賞
吉田由貴子(二年) 金賞
高野貴之(二年) 金賞
大村尚美(三年) 銅賞

第十九回毎日新聞中学生作文

立花志麻(二年) 銅賞
武川寛之(二年) 銅賞
船山陽子(二年) 銅賞

函館街づくりコンペ作品展

。共同作品

股部純一(二年) 特別賞
岩間政和(二年)

学級プロフィール

1・2年



一年A組

突撃インタビュー!

村井貞夫 先生

みなさんこんにちは、ニュースをおつたえします。今日は、特集で一年A組についてインタビューをしてみます。題して「一年A組突撃インタビュー」。「そのまんまやないか。」と思う人もまあ怒りをしずめて：あっ、あの人に聞いてみましょう。

「えっ一年A組?知らないなあ。」

……。つ、次の人に聞いてみましょう。

「ああ、一年A組、知ってるよ。たしか男子19名、女子13名、計32名じゃなかったかなあ。学級目標がえつとあつそうそう、「いじめがなく明るく楽しいクラス」っていうのと「何でも一生懸命やるクラス」だよ。なかなかいいクラスでね、入学当時は、先輩に静かすぎておそう式みたいとか言われたらしいけど今ではもう、うるさくて時々先生方に注意されてるよ。それから教科(先生)ごとに明るさというかうるささがちがうのもこの一年A組の特徴らしいよ。言い忘れていたけど一年A組の担任は村井貞夫先生でね、きびしいというか几帳面な先生で、努力家のきちんとした先生ださうだ。あつもうこんな時間だ、急がなくては、じゃあさようなら。」

みなさん、あ的美男美女、成績優秀、賞状もたくさんというあの有名な一年A組は、このようなクラスだったんですね。わかっていただけでしょうか?私もこのために一年A組を見て来ましたが、みんながみんな楽しそうでしたね。このクラスも4月にはバラバラになってしまいますが、良い思い出を作ってほしいですね。

ではこのへんで、さようなら。

(吉田 由貴子 記)



一年B組
明るい教室

田村 順子 先生

私達一年B組は、男子大人、女子主人のとても明るいクラスですが、調子にのると騒がしくなるのが学級の短所です。しかし、いざというときには、クラスが一つにまとまって取り組んでいきます。その結果、合唱コンクールではみごと金賞、球技大会では男子のサッカーが優勝など、たくさん賞をとることができました。

担任の先生は、勉強のことには厳しいと自分から言っている、たのもし先生です。

おかげで一人一人が目標を立て、それに向かって頑張っているのですが、授業態度も落ち着いてきています。これは一年B組にとって、すばらしい進歩です。せっかく軌道にのってきたのだから、もっと力を入れていきたいです。

その他には、学級の委員会活動についての取り組みです。各委員会に所属している人のいる班は、その班に合う仕事を自分たちから進んで見つけ、行動しています。他のクラスでは気づかないことも一年B組はすぐ気がつき、それについて良くなるまでしつこく追求していく、ねばり強さもあります。

学級目標の具体的な内容として発言を多くするというに基づいての取り組みをおこなってから発言が増えました。

これからも長所はもっとよく、短所は長所にするためにたくさん努力と活動をし、頑張っていけたら一人一人がもっと成長できると思います。

(水尻 有香 記)



一年C組
団結！——C

木村 以久子 先生

私達一年C組は、明るい／楽しい／仲が良い／という元気いっぱい
のクラスです。「しっかりとしている」「やさしい」「おもしろい」
「字がうまい」「絵がうまい」などの長所が人それぞれ必ずあり
それがうまく重なりあって、今の一年C組が成り立っています。

このクラスには不思議な団結力がああります。その証に、体育大会からはじまるさまざまな賞状が数多くあります。先生も私達のその力を信頼し、期待しています。先生の期待が大きいほど私達の力も増し、やる気百倍です。その他の賞状は個人のもので、これはまさにそれぞれの長所をよくいかしたものでしょう。これらの賞状は一年C組全体の力の結晶です。

しかし、人には長所がある限り、必ずその裏には短所というものがひそんでいます。その短所が表へ出ると、集団生活の中に乱れが出てきます。私達はまだ一年生で、たとえ中学生だとしても登るべき階段をふみはずしたり、進むべき道でころんだり、足場が不安定です。それを支えてくれるのが親や先生の愛、友達との友情、そして先輩方の見本です。私達も、いつまでも「まだ一年生」でいられませんが、あと数日で一学年終了。自らの力で足場をふみかためなければいけません。これから二年生になっても、明るい／楽しい／仲がよい／を目標にがんばりたいと思います。

(館下ひとみ 記)



一年D組

明るい教室一年D組

松山 元彦 先生

ぼく達の一年D組は、明るく一人一人が個性をもったクラスですが騒がしくけじめのない所があります。みんなで注意し合い協力して、良いクラスになるように努力しています。

生活面では、忘れ物が多く、とくに国語の時間の忘れ物が多い人多い。それで忘れ物調べを毎日やったり、学活で何度が話し合った結果少しずつですが減ってきています。

学習面では、すぐ出来る人とまあまあの人がたくさんいて、クラスの各教科の平均点はまあまあです。

文化祭の新聞コンクールのときは、おそくまで残ってみんなで協力し合いがんばったけれど入賞できませんでした。合唱コンクールでも練習は朝何度もやっていたのに、入賞できず、残念でした。

あと、球技大会の結果は一年生の中でもいい方で、男女共に優勝をねらって努力してきたけど二位でした。

担任の松山元彦先生は、忘れ物や私語をなくそうと力をいれています。また、なやみなどをきいてくれるやさしい先生です。それに授業中静まりかえっている時いきなりギャクをとばすのです。

このように一年D組は、私語や忘れ物をクラスメート一人一人が気をつけて、賞状は四枚だけでも努力し協力し合っていたのでみんな悔いは残らなかつたようです。二年生になったらクラスは、バラバラになるけれど一年D組で学んだことを十分に生ししてくれると思います。

(鳥山 悟史 記)



二年A組

我二一A伝

中谷 満 先生

何も知らない皆さんへ、今回は特別に、二年A組について、くわしくお教えしたいと思います。

我が二年A組は、男子十九名、女子十五名、締めて三十四名のすばらしく明るい積極的な方ばかりであります。(その分授業中も)そして先生はというと、私達が忘れ物などをすると、すばやく飛び出す“チョップ”で有名であり、また、戦争にとことんくわしい中谷先生です。

我がクラスの良い所といえば、やはり、団結力でしょう。

その証しに、ババンノ賞状が四枚並んでいるのです。(どうだっ)合唱コンクールでは、おしくも賞は逃がしたものの、皆、びっくりするほどの美声を発しました。

その悔しさをぶつけ、球技大会では、自分の力をフルに出し、女子は、優勝に輝き、見事、その屈辱をほらしました。

いざという時に一致団結できるというのは、とてもすばらしいと思います。

しかし、我がクラスは、あまりけじめがないという欠点があります。チャイム着席が守れずに、先生方を困らせることもあります。という訳で、今まで二年A組についていろいろと書きましたが、いかがでしょうか。

私達もこれから三年生になり、受験をひかえ大変ですが、今まで学んだことを生かし、がんばっていきなさいと思います。

それではこの辺で、皆さん、ゴキゲンヨウノ (大島 典子 記)



二年B組
最高!!われらが仲間たち

上田陽子先生

二年B組は、男子十七人、女子十七人、計三十四人でみんな一人一人元気が良くてとても楽しいクラスです。

担任の上田先生は、ときには厳しいけど、いつもは優しく私達を導いてくださいます。そしてその若さと美貌は、私達の誇りです。

学級目標の一つに「協力し合いまとまりのある学級」というのがあります。みんな目標に向かってがんばっています。そして、合唱コンクールの金賞という素晴らしい成果を手にすることができました。

授業中はとても静かです。最初のころは内気でおとなしかったです(授業のときだけ)ので、「陰気なクラス」と言われていました。でも最近では明るくなって積極的に(?)勉強にはげんでおります。

教室にはいつも花が飾ってあります。これは少しでも住みよい教室にするためにみんなが持ちよったものです。こうした一人一人の思いやりが教室の中を華やかにしています。また、後ろの壁にはみんなが描いた友達似顔絵がはってあります。一生懸命特長をつかんで描いたので、どの絵もよく似ています。でもみんなが絵が素晴らしい上手なのではなく一人一人の良い所を認め合ってるからだと思います。また、毎朝のスピーチは皆楽しみで、よいスピーチには自然に大きな拍手が出ます。

でも、いい所ばかりじゃなくて悪い所も沢山あります。忘れ物をしたり、けじめがつかなかったりで先生に怒られることもあります。これを直していくのがこれから課題です。

これから三年生になって自分のことでそれぞれ大変になるけど、絆を大切に、協力し合い、卒業するときには、良い所が10倍にも100倍にもなるように頑張ろうと思います。

(増田・橋詰 記)



二年C組
我が二年C組について

信田博之先生

ぼくたち二年C組は、男子十八名、女子十六名の明るく、楽しいゆかいなクラスです。でも調子にのるととても騒がしくなります。クラスの担任は、信田博之先生、いつもやさしく!! 時にはきびしい先生です。

勉強の方はどうかというと、授業中はわりと静かで、発表する人も多いです。しかし、さっきも述べたように、調子にのるとワイワイガヤガヤと、とつてもうるさくなります。でも真剣に勉強している皆の瞳は、輝いています。

これといった学級目標はなく、皆のびのびと生活しています。学級目標がなくても、二一Cは成り立っているのです。

体育大会では、男子一位、女子一位、総合一位というすばらしい成績を残しました。文化祭の合唱コンクールでも、銀賞をとりましました。

うちのクラスは、委員会活動もそれぞれ委員の活発さが目に止まります。

さて、この「我が二年C組について」を終わりに近づいてまいりましたが、この二年C組を支えているのは信田先生なのです。そのことを忘れないでほしいと思います。

さて、少しは二年C組の事がわかりましたか? これからも、明るく、楽しいゆかいなクラスを、より研ぎあげていきたいと願います。我が二年C組について」を終わらせていただきます。

(張間 真人 記)



二年D組

二年D組の仲間達

高橋 一也 先生

うちのクラスは高橋一也先生を筆頭に、個性あふれるメンバーで構成されています。とくに、目立った悪いやつもいないけど、けっして真面目な訳でもなく、たまに(たまにじゃないやつもいるけど)、怒られる人もいます。うちのクラスの団結力はと言うと、体育大会、球技大会、共に散々たる結果に終わりました。しかし、合唱では、高橋先生をとおんイライラさせておきながらのB組との同時優勝を、そして新聞では一等を、と大活躍でした。さて、なぜ合唱で先生がイライラしたかと言うと、練習と言う練習を、怠けて、総練習さえも、全開ではなかったのです。しかしさすがに色々な人の言葉が、みんなをやるきにさせたのでしょうか。本番では、みんな声がでていました。話は変わりますがうちのクラスには、花がおいであります。これは、先生が持って来ます。だから、うちのクラスには絶えず花があります。そして、それを、こまめに整美委員の小川さんたちが水を取り替えたりしています。

高橋先生は、2年D組になったばかりのころは、怖ろしい先生かなと思っていたけれども、いざ接すると生徒のことを、考えてる先生なんだなあと思いました。

このころは、高橋先生の考え方も、すっかり定着して、みんなサイボーグ化しています。

こうして我がクラスはどことなくまとまりのあるいいクラスだと思っっています。
(藤島 昭吾 記)



二年E組

知られざる二年E組の世界

佐藤 泰治 先生

我が二年E組は、ハンサムな男子大名、美女大名の計三四名の明るく、仲が良く、何事においても優秀なクラスです。しかし、そう言いたいのはやまやまですが、現実とは難しいもので、なかなかうまくいきません。

男子は、口が達者で、いつも女子の悪口を言ってきます。そこへこたれるのは普通の女子です。しかし、E組の女子は強いのです。教科書を何冊も持って男子の頭をぶん殴り、いすはけり飛ばし、男子を鋭い目でにらみつけます。そうすればたちまち男子は、「ゴメンナサァイ。」と謝ります。このように我がクラスは、女子が天下をとっているのです。このように、とてもクラスはにぎやかすぎます。そこで出てくるのは、担任の佐藤先生です。佐藤先生とは御存知、唯一おもしろくもないギャグを放つ先生です。その佐藤先生が一発ギャグを飛ばすと、たちまち教室中は、静まりかえります。

我がE組にはあまり自慢できるものはありませんが、一つだけあります。それは男子の球技大会優勝の賞状です。普段男子は何事にもあまり協力的ではありませんが、運動となると別。みんな、目の色を変えてがんばります。

これからは、自慢できるものを増やし、先生と生徒で信じ合い、そして助け合い、卒業するまでE組を信頼しあえるクラスにして行きたいと思っっています。

不思議なバランスを持っている我がクラス、これからも前進あるのみです。
(三好 美和 記)

江差の歴史・文化・自然に感動！



一日目

「歴史の町 江差」

二年D組 佐藤 健太郎

五月十九日。朝露の降りた梁川公園に私達は集まった。

出発式が終わり、うきうきした顔でバスに乗り込んだ私達は、これから始まる小さな旅への期待で心はずませていた。バスの中では、もう授業時の顔はなかった。

気がついた時には、バスは、開陽丸青少年センターに着いた。狭い空間から解放された。やはり外の空気はおいしかった。

レーザービデオと呼ばれる映像を見る部屋に入った。熱気あふれる中、みんな真剣だった。幕末の激動の歴史がくわしく説明されていた。外へ出ると、まぶしい光が目をさした。その輝く光の中から、軍艦「開陽丸」が姿を現した。

天に向かって突き出しているマスト、黒で身を包む船体、大砲を備えた巨大な海上の要塞の中は、資料室になっていた。

その後、カモメ島へと足を運び、すばらしい風景の中で昼食をとり、そして私達は歴史の町江差へと散っていった。

ほとんどの人は、郷土資料館、中村家など、江差の歴史にかかわる場所を探した。そして、追分館に集合、江差追分を聞いた。第十五回江差追分全国大会優勝者、浅沼春義さんの歌声を聞き、レッスンを受けた。

太陽が夕日になりかけている時、五厘沢温泉「緑館」についた。旅館では荷物をまとめ、夕食へと足を運んだ。それから、カラオ

ケ大会を行い、先生も生徒も、笑いをまじえて、楽しい時を過ごした。そして、反省をし、各自部屋に戻った。

その後、各自、温泉に行くものもあれば、みんなでトランプをしたりする人もいた。とにかく自由時間は、人それぞれだった。

夜になって、消灯時間がきて、みんな、それぞれの思いをのせて各自一人一人夢の世界へと入っていった。

二日目

「思い出とともに」

二年A組 大島典子

2日目の朝。起床とともに、さまざまな顔が見える。

さわやかな朝とは全く対象的な顔。昨晚のつかれはどこへ消えたのか、超元気な顔。はりきって他の部屋の友達を起こしに行く人もいた。

そういう中、皆、それぞれの朝をむかえ、出発の準備をし、話をしながら、食事の合図を待った。

合図があったとたん、皆いっせいに大広間へと向かった。入り口は一時、人でバニック。

そんな状態の中でも、スリッパだけはきちんとそろえて、食事をとった。ごはん党の人が多かったのは日本人ならではのだろうか。

食べ終わったところ、その場で閉会式が行われた。だいたい皆、おとなしく話を聞いていた。

その後、また部屋にもどり、再度点検し、残り時間はおしゃべり

したり、はしゃいだりと、旅館での最後のひとときを皆、満喫していたようだ。

そしていよいよ緑館に別れをつける時が来た。

旅館の人にあいさつをし、バスに乗りこんだ。皆、つかれが出てグロッキー。出発した時の元気はどこへやら……。

しかしバスは、そんなことは気にもとめず、それぞれの思いを胸

に、函館へと進

んでいった。

一時間半後、

晴れわたった空

とともに見慣れ

た風景がもどっ

てきた。

そして、各学

級ごとに解散し、

楽しかった二日

間の旅行は、幕

を閉じた。来年

の修学旅行の予

行練習を兼ねた

宿泊研修だった

が、生活規則を

守る、集団行動

をすするにあたり、

おおむね良い旅

行だったと思う。

カモメ島で昼休みのひととき

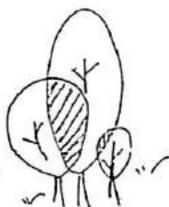


1年

校外学習 9月10日

西部地区を

探訪



生徒の感想から

一年C組

佐藤 亜由美

校外学習で、私は、函館のいろいろなことを知りました。そして、郷土についても深く関心をもつことができました。班も協力があがり、楽しく実行できました。暑い中歩いたせいか、次の日、筋肉痛になりました。

一年C組

稲岡 優子

何もかもが初体験でした。校外学習が終わったとき、「とても楽しかった。」という感想がありました。それとともに、「私は班長

として何をしたのだろうか。ただ見てきて、ただ楽しんだだけだったのではないだろうか。」という疑問が頭をかすめてきました。だけど、班の反省もとても良いものだったし、みんなが私のいうことをきいて行動してくれたので、自分ではよかったと思います。

一年C組

高瀬 龍文

ぼくたちのクラスでは、班長が前もって、校外学習の下見を行いました。班長や代議員、そして、担任の先生とで西部地区に出かけ、いろいろなと勉強しました。また、校外学習が終わってから、みんなで放課後まとめをし、研究授業で発表しました。男子の班で、協力が少なかったり、まとめる時に苦労したりしましたが、とてもよい経験になりました。



公会堂前広場で



—学校生活について考える—

司会

これから生徒会座談会を始めます。今日話し合う内容は、学校生活について考える”です。

まずは五稜中の生徒の現状について話し合っていきたいと思っています。

斉藤

三年生の現状として挙げられるのは、一部ですが髪を脱色したり、校内でお菓子を食べたり、不用物を持ってきたりする人がいますね。

宮腰

そういう人は二年生にもいます。先生に対する態度が悪い人もいますね。

西口

一年生でもやはり授業態度が悪い人がいますね。授業中、堂々と寝ている人なんかもいます。

司会

それでは、どうしてそのような状態になったのでしょうか。先生がたは気づいた時には注意してくださるのですが……

高野

生徒同志だと、友達だからとか仕返しが怖いとかでなかなか注意できないと思います。

小林

注意するかしないかは、曖昧な言い方ですけど、一人一人の良心の問題だと思います。

司会

それではどうしたらよいか、というのが問題になってきますね。

宮腰

はじめは小さなことからするんですよ。それが段々大きくなって……だから小さなことをしているうちに注意しなければいけないと思います。

斉藤

注意すると反発する人が多いですが、一人で注意できなかったらみんな注意すればいいと思います。

小林

きれいごとかもしれませんが、たとえ一人でも注意できる人がいれば、少しずつでも良い方向に向かっていくと思います。

大事なものは確固たる意志だと思えます。

宮腰 生徒会としては、朝会のときに呼びかけたり、生活委員と協力していけばいいと思えます。

司会 難しい問題ですが、そういうことをしているのを見たら注意することが大事だと思います。生徒会も何らかの形でアピールしなければなりません。

それでは違反する人が多いということが出たわけですが、校則の問題についてはどうでしょう。

田中 違反は不良という考え方はやめた方がいいと思います。

高野 そういうことをする人は不満を持っていると思います。校則なんかイヤだ、などというふうに……

佐藤 いや、そういう人よりも、格好いいからやっている人の方が多いですよ。

田中 ある学校で、制服を無くして私服登校したら、みんな最低限のマナーは守るようになったそうです。

山川 やはりそうやって日常生活の中からマナーを学んでいく、というのが理想ですね。実際、校則の無かった小学校時代には、みんな普通にしていたと思います。

谷口 もちろん、これだけの人数がいれば、最低限のマナーを守れない人も、中には何人かいるでしょうが、そこまで徹底することは無理だと思います。

金野 中学校に入っていきなり「校則」を守らなくてはならなくなる。そのギャップに抵抗があるのかもしれないですね。

小林 五稜中はそれほど校則が厳しくないと思いますが、校則に不満があるのなら、違反しないで意見を出してほしいです。でもいざとなると消極的になってしまうのが問題です。

宮腰 そのためにボイスボックスの活用が必要です。でも今までは設置しても誰も意見を入れてくれなかったたので、より一層のPRが重要になってくると思えます。

司会 PRだけではなく、出てきた意見は充分検討し、前向きに取り入れていくことが重要だと思います。それによって、校則に不満があるのなら違反するのではなく自分達で直していくという気持ちに生徒がなれば問題も解決すると思えます。

では次に五稜中の良い面について話を進めたいと思えます。まずあいさつ運動が挙げられます。これによって、以前はあいさつをしてしなかった人もちゃんとできるようになったのではないのでしょうか。

宮腰 でも玄関に先生がいるとあいさつするのに、いないとあいさつしないで行ってしまう人もいます。やはり、先生のためにやっているのではなく、礼儀を身につけるためにあいさつ運動をしているというのを説明しなければなりません。

柏 五稜中では校外清掃に限らず、校内清掃も他の学校に比べてさかんだと思います。

西口 やはりこれも、ただ掃除しているのではなく、環境の美化に役立っているという意識を持ってようPRすることが大切ですね。

山川 行事への取り組み方はどうですか。

司会 体育関係の行事のときはみんな盛り上がるのに、文化関係の行事のときは積極性に欠けています。

金野 生徒総会やその他の生徒会関係の行事がつまらないという人がいるので、もっと工夫して生徒の興味をひくものにしなればなりませんね。

司会 募金などのボランティア活動についてはどうですか。

高野 以前おこなった雲仙岳の募金運動のときは、生徒から自主的に原案が出たのが良かったと思います。

谷口 生徒会でも、寄付金がどのように役立っているのか、ということをも具体的に説明しないといけないと思います。

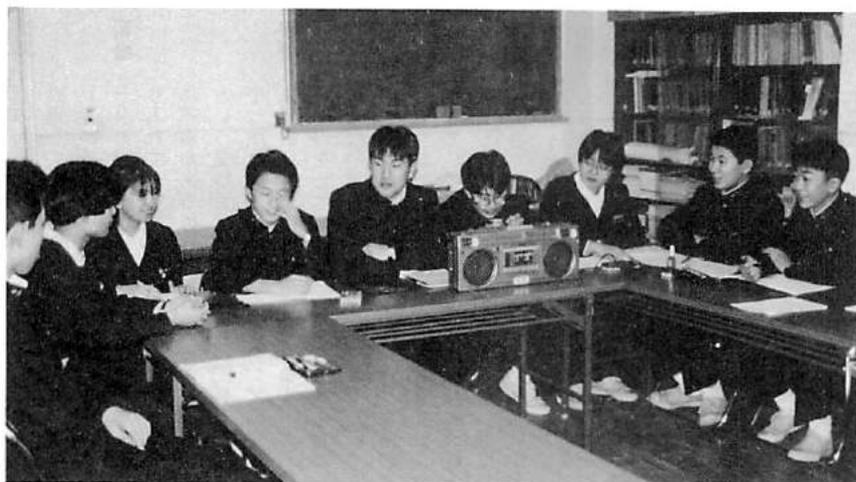
司会 五稜中の良い面として、いくつかの意見が出ましたが、最後に「五稜三訓」についてはどう思いますか。

高野 それ自体は良いと思いますが、生徒会行事のほとんどが「五稜三訓の実践のため」という趣旨なのは、少し執着しすぎだと思います。

佐藤 五稜三訓を参考にしつつも、「五稜三訓のために行事をする」のではなく、あまりとらわれすぎないで自主的にやっていくのが良いのではないのでしょうか。

司会 生徒会で行事を企画・運営するときは、生徒にその趣旨を理解させ、興味を持ってもらうことが大事だと思います。また、あいさつ運動や校外清掃は、生徒会からの押しつけではなく、生徒が自主的に取り組めるようにしていくことが今後の課題でしょう。

短い時間でしたが、充実した話し合いになったと思います。今日話し合ったことを参考に、これからの学校生活のより一層の向上を期して頑張ります。



出席者

三年

多田 徳広

斉藤 貴生

金野 瑞穂

田中 綾子

二年

小林 優

谷口 哲将

佐藤健太郎

高野 貴之

宮腰 聖子

一年

柏 充

西口しのぶ

山川 加奈

文苑

校内弁論大会

優勝者論稿

森林伐採に思う

一年 吉田由貴子

私達人間は、酸素を吸って二酸化炭素を出しています。それと逆に、二酸化炭素を吸って酸素を出す働きをする物、すなわち人間にとって欠かすことのできない物、それが植物なのです。

人間は、この地球上のどの生物よりもすぐれている。自分達が便利にくらせるようにと

いろいろな物を発明し、作りあげてきている。世界じゅうの人がある物に興味を持ち、研究や実験をかさねることによって、あきらかになっていく事実。もう、ほとんどのことがわかっているのではないかと思うほど、人間は多くの物を研究し、結論を出し、文明を発達させてきた。

そんな人間でも、やっぱりまだまだ、たくさんの方がわかっていない。

その中の一つに植物も入っているのです。もちろん植物も、根によって水分を吸収しているとか、葉が日光をあびて養分を作っているとか、植物の種類や、どのように育っているのかなどのはわかっているのですが、追究していくと理解されていないことがあるのです。植物の全てを解明することができれば、植物のかわりとなる物ができるのかもしれない。でも、本物には勝つことができないと思います。

森林になっている所や山に行くときよく空気がおいしいといいますが、考えてみるとあたりまえのことだと思えます。

自動車がひっきりなしに走っていて排気ガスが充満している所よりも、森林によって、新鮮な空気がある自然な場所の方が空気がおいしいし、気持ちもいのです。

植物は、我々に心の面でも安らぎをあたえてくれる大事な物なのです。

そういう人間の作った人工の物ではなく、自然な植物だからこそ人間にとって必要なのだと思います。

ところが今、非常な勢いで、世界じゅうの木が切り倒されています。

少しばかりではありません。緑の国といわれるブラジルのアマゾンも木を切り倒し、その跡には、工場を作るまでになりました。

これは、大変なことであり、悲しいことでもあるのです。

このままでは、二酸化炭素が増加し続けて酸素不足で息苦しくなるでしょう。

たとえ、木を植えたとしても、木は一年や二年で育つものではありません。何十年という年月をかけて、少しずつだんだんと育っていく物なのです。

もしかすると、この美しい地球がほろんでしまう可能性も少なくはないのかもしれない。植物は、人間にとって大切な物ですが、人間以外の動物にとっても大切な物です。

草木と木の実食べ物として、樹木は、空気や度物のすみかとして、それぞれが必要な物なのです。

そんな植物、特に森林を切り倒していいの
でしょうか。

人間は、目先の都合や便利さにまどわされ
て、自分達の手で自分達を苦しめようとして
いるのではないのでしょうか。

私達は、自然が正常に働くシステムがなく
ては生きていけません。このシステムを守り
続けるために私達人間は植物を守り、植物を
少しでも増やしていかなければなりません。
函館でも、函館の木としてイチイの木を特に
大切にしています。

私達もこれからは、もっともっと自然を大
切にし、木や花を植えたりして、さらに植物
を増やしていこうではありませんか。
それが、私達の住む地球を救い、幸せをあ
たえてくれるものだと思うからです。

私の好きな街 函館

二年A組 大島 典子

私達が現在住んでいる街を皆さんは深く考
えたことがありますか。

今年度から、函館市で、毎年八月十三日を
夜景の日とすることになりました。

一人の高校生の投稿から始まったこのイベ
ントは、観光都市としての発展に大きく貢献

することと思います。

でも、そんな中、気になることもあります。
高層建築物の増加です。

函館山のふもとにも、景観をそこねるよう
な建物がいくつもあります。

建てる業者にも事情はあると思いますが、
まわりの景観にも協力してほしいと思うので
す。

もしも、このまま高層の建物が増え、東京
のように、人と建物がひしめき合うような都
市になってしまったら、いったいどのような
街になるのでしょうか。

今、大都市で深刻化する都市化は、経済的
発展を第一に考え、その政策を押し進めてき
たことが原因です。

その結果、ますます住みづらい都市を形作っ
ています。

それは、まちがいなくそこに住んでいる人
達にも責任があるのです。

函館も例外ではありません。私達が大人に
なった頃にはどうなっているか、とても心配
です。

この問題については、全国的にいろいろな
政策をとってはいますが、私達一人一人も、
良い方へ向かうよう、協力して、住み良い環
境を守っていかねばいけないと思います。

その中で、私が一番関心を持っているのは、
景観との調和の問題です。

函館だけではなく、小樽など他の都市でも
大きな問題といわれていますが、函館では、
「西部地区の環境を守る会」という組織を作っ
ている人もいるし、さまざまなイベントを実
行し、もり上げるといっても感心な人達も
います。

また、歩道を石畳にしたり、主な名所にス
ポットをつけるなどの工夫をこらして、
函館という街の良さを一層、きわだたせるた
めの努力をしています。

それが功を奏したのか、道内ランク六位に
なるほど、観光客も増えてきました。

しかし、たくさんの方が訪れるのに、歩道
駐車場が完備されていない、観光名所もあり
特に観光シーズンは、人と車がこみ合って、
整備の必要性を痛感することがあります。

多少、せまくても、歩道をつけなければ、
大きな事故が発生するのではないかと心配で
す。

このような状況を見るにつけ、私達自身も
このような問題を積極的に考えてみなければ、
と思うようになりました。

私も、函館に住んでいるながら、今まであま
り深く考えていませんでした。

しかし、これを機に考えてみようと思います。私達は環境保全に一生懸命な人達を見習い歴史を受け継がなければならないと思います。そのためには、皆が、関心を持ち、小さな一歩をふみ出すことではないでしょうか。そうすることによって、問題も早く解決できると思います。

本当は、皆、もっと早く気がつくべきだったのかも知れませんが、函館は、今ならまだ手おくれではないと思います。

様々な問題を解決するということは、大変で、時間もかかると思いますが、しかし、街の景観を守るために、市民が協力しあい、百万ドルの夜景をさらに発展させ、毎年の夜景の日が、もっとすばらしいものになったら、きっと街は、今よりも観光客が増えるばかりでなく、自分たちにとっても、住みよい街に飛躍できるのではないのでしょうか。

私は、生まれ育った大好きな函館が、何年たっても、由緒ある美しい港町であってほしいと願っています。

命について

3年E組 池田 志穂

私達中学生は生まれてから、十二年から十

五年生きているわけですが、「あーこんなこともう嫌だ、死んだ方がましだ」などと、一度や二度は軽い気持ちで考えたことのある人も多いのではないのでしょうか。でも、現実に自ら自分の命を絶って自殺する中学生や高校生が増えています。

その中に、高校生と中学生の兄弟が自殺したという事件がありました。この兄弟は恵まれた家庭に育ち、頭も良く、家族とはとても仲が良かったということです。

そしてもう一つは、宿題におわれた小学生が自殺したというものです。その人達にしてみれば、他人には言えないような深い悲しみ・つらさ・心の行き止まりみたいな、もうどうしようもないと思って自殺してしまっただけでしょう。しかし、逃がれる道が「死」しかなかったのでしょうか。

死んで救われるなんて誰かが言いましたか？死は救われるのではなく、全てのつながりを切ってしまう。家族や友達・周りの人達全ての人のつながりを、命を絶つと共に切ってしまうのです。

私達はまだまだ若いのです。やりたいことはこれからいくらでも出来るのです。悩みのない人間なんていないと思います。自分が、この世で一番不幸だと思わないで下さい。

命を授かって一日もしないうちにこの世から消えてしまう赤ちゃんがたくさんいます。食べ物がなく、お腹を空かせたまま死んでゆく子供達、飢えと病気で苦しみがら死んでゆく人々、どんなに生きたくても、環境が悪く生きていけない人々も外国にはまだまだたくさんいるのです。私は国語の教科書などを通して、世界の現状の厳しさを知りました。

恵まれた日本に生まれながら、自らの命を絶つ。乏しい国の人々にしてみれば、信じられないような出来事です。そんな勇気があるのなら、死んだ気になってその事にぶつかってゆけば、少しは道が開かれるのではないのでしょうか。

これから私達は最初のハードルともいうべき、受験が目の前にあります。ハードルの大きさは、人それぞれがうけれど、飛び越えてしまえば、あとはゴールまで走るだけです。今の私達にしてみれば、大きな試練に感じられますが、これからの長い人生の中では、これも小さな積み重ねの一つになる事でしょう。そうです。私達には未来があるんです。「これから」という言葉を信じて……。

俳句(三年)

みちのくの旅で詠む

龍泉洞 歴史の重み石筍に

池田 展之

金色堂今も眠る藤原氏

長内 良介

夏の宿パンツ姿を友に撮られ

加藤健太郎

龍泉洞窟出れば夏の暑さ

竹内 雅浩

金色堂光まばゆい御堂かな

平沢 孝雄

平泉めぐる歴史に言葉なし

池田 真紀

阿弥陀堂みな金色に心うばわれ

岩崎 幸子

狛鼻溪岩壁の美にただ驚く

小泉美恵子

そよ風に背中押される月見坂

小西美也子

夢の跡苗植えしてる田んぼかな

金野 端穂

舟下り涼しげな川に鮎泳ぐ

坂井田奈津子

初夏の日に光り輝く金色堂

志村 友美

狛鼻溪岩間に響く南部の歌

福森真由美

そよ風に心さわやか舟下り

足達天下士

岩木山頂ぎに残る雪白く

石川 大輝

龍泉洞池底湖の水青々と

上坂 亮介

せせらぎに心が和む狛鼻溪

高橋 友和

岩木山白雲なびかせ夏に立つ

滝本 亮

手作りの郷土玩具が思い出に

野口 嘉弘

鉾山の歴史も古く尾去沢

福田 淳

五月晴れ岩手山麓美しく

山崎 伸也

旅じたく少し気になる空模様

阿部久美子

ライト浴び光あふれる金色堂

大村 尚美

万緑に山肌飾る岩木山

佐藤 千香

川の上歌う船頭の声響く

常案 敦子

澄んだ水心がなごむ龍泉洞

田口 知陽

松の木の陰に見える北上川

対馬 梨恵

狛鼻溪冷たき水をかきまわす

中 恵子

舟下りえさを与える鯉の群れ

水尻 千晶

五月雨がバスの窓打ち目を塞ぐ

斉藤 貴生

水田に姿映せし岩木山

佐藤 秀和

岩手山かすかに残る山の雪

白鳥 伸明

金鶏山往時を偲びそびえ立つ

武田 光博

初夏の霧に頂き白む岩木山

野口 雅博

龍泉洞色鮮やかなエメラルド

濱本 教克

夏浅し涼しげな空に雲一つ

吉村 明郎

猊鼻溪右に左に岩を見る

秋本 祐美

水面に万緑浮かぶ猊鼻溪

岡村のぞみ

東北の緑の山に鳥の声

木村ルリ子

静けさに心安らぐ初夏の舟

斉藤ひろみ

舟下りふりまくえさに鯉の群れ

佐藤 望

五月雨の音に起こされるバスの旅

沢谷 睦子

風薫る猊鼻の谷に歌ひびく

平賀 端穂

夜更けまで暑苦しさに眠られず

諸井 菜々

万緑に姿現す鏡岩

東 大輝

小岩の夏の日牛も昼寝かな

小川 浩平

水田でおじさん一人苗植える

木村 保之

蛙鳴く夜のホテルで友と語る

佐々木健曜

金鶏山今も姿を残しけり

多田 徳広

五月晴れ静かに流れる砂鉄川

三浦 仁

猊鼻溪そよ風受けて舟下り

山形 修平

水面に若葉が映る猊鼻溪

岩田 洋子

水芭蕉夏の訪れ感じさせ

岡田 裕生

中尊寺大空隠す緑の葉

川村 友紀

猊鼻溪鮎たちはしゃぐ夏の川

小杉 愛

花が散り修学旅行も思い出に

佐藤 宏美

龍泉洞岩にこだます皆の声

松浦奈津子

龍泉洞ひたひた垂れる石灰水

若林 光子

地底湖の水清らかな龍泉洞

大森 暢彦

風鈴が手作り村に鳴り渡る

館山 繁

猊鼻溪岸辺の藤に川風吹く

辻崎 久陸

真夜中の部屋の明かりに虫がよる

菊池 雅之

猊鼻溪澄んだ水に鮎のかけ

畑沢 正樹

龍泉洞夏の清水流れゆく

丸山 滋

猊鼻溪青葉若葉を映しだす

池田 志穂

新緑の早坂高原に風ただよう

小川 晴恵

一面にりんごの木々の白い花

須藤 綾子

尾去沢歴史の道を歩み見る

照井 菜々

エメラルド心やすまる大地底湖

鳴海 芳子

白い花季節を告げる水芭蕉

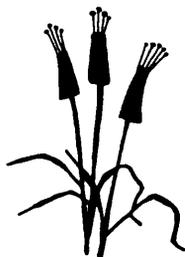
牧田由記子

蛙の群れ猊鼻追分に川さわぐ

山田理恵子

岩木山すそに広がるりんごの花

坪川 裕美



短歌（二年）

講習の終わりし喜び胸に抱き友と帰りぬ雪なき道ぞ

谷口 哲将

一月の半ばを過ぎし大寒につらすら無き冬のわびしさ

立林 英明

今年こそ去年の歩みを省みて新たな誓い貫抜きゆかん

吉田 忠生

湖畔道寒さに負けぬ北きつね路端にすわり食べ物をせがむ

大島 典子

黒猫が日なたぼこする冬の墓地異国の人のふるさと遠く

山下 景子

冬の日の川の流れに見とれつついつしか吾にも震えつたわる

波多野裕介

色赤く燃えたる夕陽に背を向けてカラスの群れは寝ぐらに帰りぬ

山城 学

帰り道友と別れて歩く時静けさのなか夕焼けに染まる

佐藤 千草

新春の夜明けの空を眺めつつ胸にあふれくる期待と抱負

輪島 拳

扇風機押入れの奥で冬籠もり来年の夏来るまで眠れ

増川 健二

公園の塚に放流せし金魚らの氷の下での安否気になる

藤田 一行

過ぎ去りし楽しき日々を思いつつ山と積まれし宿題をする

長内 美穂

夜の街肩をすくめて見上げれば雪はネオンの色に染まりて

起き出でて窓に凍てつく花模様窓を開いて深呼吸する

森 麻子

白き朝庭にたわむる寒すずめ仲良き姿に心なごめる

笹木 香織

この世にも油地獄があるものか原油の海に喘ぐ海鳥（湾岸戦争）

神谷 誠

大晦日除夜の鐘の音聞かんとしテレビのポリウム上げて待ちおり

北山明日美

雪国と言えど積もる雪もなく車粉ばかりが宙を舞いおり

田原 裕介

成人式華やかに着飾り集う人らのまぶしき中に姉もまじりて

増田 豊

優勝の瞬間の興奮冷めぬ間の観客の拍手の心に染みる

服部 智行

しんとした静けさの中寒そうな三日月一つ藍色の空

川渕 愛

お年玉日頃のお礼をしようかと母に贈った白いセーター

岡田 静香

今はまだ裸で震える木々たちがともに見るのは春の夢かな

山口 陽介

どんよりと鉛色した冬の海船が行き交う白波たてて

今井 里子

級友に一年ぶりに再会し話すことなく時間を気にする

小笠原さおり

北風が身に凍みてくる夕暮れに家路を急ぐ人々の群れ

川村美美子

雨のなか濡れて光る白い羽根車道横切り小鳥の散歩

川柳(二年)

○冬到来 道行く人の背は丸く

計画が立派なだけの冬休み

戦争は多くの悲劇を生んでいる

通知表 長い長いお説教

先生へ私があげたい通知表

うちの母いつも何でも歳のせい

駅伝のアンカー涙でテープ切る

初詣 人ごみの中での願い事

正月やけなげにコピを売る子供

アルバムにつまる思い出 時忘れ

幸せの唄は悲しいときにとっておき

齋藤貞由美

盛田千加乃

湊 康太

王 彩

米内山恵子

金沢 秀司

成田 雄二

木村 智美

藤山かおり

福原美知子

大森 玲子

雪降る降る子供ははしゃぐ五稜郭

後鳥羽殿 歌よむひまに逃げるべし

白髪になって浦島悔しがり

初詣行こう行こうと夢の中

冬休み皆に会えない短所あり

川柳を考えすぎて暮れにけり

カルタ取りみな手の甲赤くなる

沢山のお金持つより思いやり

スキー場金はかけても下手は下手

福袋並んで買ったほどもなし

積もる雪踏まれ踏まれて春が来る

足音がだんだん早まる冬の道

下がったね 静かな一言胸騒ぐ

三浦 勉

南部 妙水

広部 貴昭

棚上 大輔

山川 加奈

北川 浩之

加藤 幸

田村 正美

鳥山 悟史

中村 和恵

五十嵐ひとみ

上田 絵美

伊藤 嘉邦

コレクシヨン時代とともにゴミとなる

雪のない正月迎えもの足りず

ゆううつな自分と同じ空の色

知らぬ間にすり抜け通った一年間

親の目を盗んで遊ぶテスト前

大晦日テスト紙出てくる大掃除

車粉じん雪はまだかと待ち望む

神参り今年はやるぞと誓ったが

気がつけばあつという間の冬休み

お父さん車洗って雨降らせ

粉雪のニュースを運ぶ北の風

薄着して人の前では笑顔みせ

風呂に入り私一人のお月様

宗山淳之介

太田 陽一

佐々木美嘉

館下ひとみ

今 久仁子

榊田 直樹

西郷 仁美

小林 良美

赤山 りえ

山名 梨絵

府岡 乙絵

堀 葉子

長谷川千佐子

思い切り羽ばたきできぬ籠の鳥

四十谷貴子

○何をするかと一番迷う自由研究

金谷亜希子

お父さん酒がなければ早食いだ

有賀 裕紀

○稲の穂に減反の雨降り注ぐ

稲岡 優子

テレビでも見ながらすこすかお正月

佐藤亜由美

○正月のにぎわい見えない島原市

市島佑起子

暖かい日差しをうけて花天国

前田 悠希

○政治家は陰でこっそり悪だくみ

杉野 竜也

七草や時代も変わりバック詰め

山崎 浩

七草も七日過ぎればただの草

高瀬 龍文

△さがし物見つけて喜ぶ大掃除

本庄 智志

手編みセーター祖母の温かさに包まれて

立花 志麻

ななかまど寒さにふるえ真赤なり

佐藤 大輔

クリスマスもみの木たちが目立ってる

今津 那智

ななかまど朝日を浴びて春を待つ

角野麻紀子

かっこつけ寒さで髪がカチンコチン

松村 康仁

あいさつを元氣いっぱいしている子

石川 大介

テスト前あわてる自分なさない

松本 清二

△冬休みため息つくころ三学期

今野 未穂

△どじな姉メガネしたまま顔洗い

武川 寛之

△大掃除父はもっぱら口でやり

中村未知子

いやだなあ幼き元旦にもどりたい

橘 季樹

初夢にかなえられない夢を見る

米谷 絵里

雪道で転んであいかさつ交わし合い

岩間 政和

正直に言えば言ったで叱られる

高野 真美

鐘の音は受験生には耳ざわり

中村菜美子

お年玉もらうときまで良い子です

嵐 奈津恵

おみくじを引いて今年の初めかな

田口 恵子

桜咲くころ心豊かに進級せん

船山 陽子

夢と未来

田村 正美

人はだれでも夢をみる
自分の未来を信じて

でも、夢を見ない人、夢を見る勇氣のない人もいる。この人達は何を考えて生きて行くのだろう。例え、高校、大学に行き、大会社に入ったとしても、大きな夢を持っていなくては生きる意味はない。こういう人は夢を持つことをこわがっているのだ。

今は未来なんてわからない。でも今の自分を変えて、初めて未来は変わる。

未来を信じる人は、きっと人間として生きていける。

夢の中で自分の未来を追いかけながら

意見文

自分らしく生きる

三年 小西美也子

なかで、一点の曇りもないまっすぐな信念を立派に貫きとおしている。私のような者には、陽子の生き方がまぶしく、頭が下がる思いである。

夏休み中、たくさん本を読んだ。その中で一番印象的だったのは、三浦綾子の「氷点」だった。前から読もう読もうと思っていただけに、上下二巻を二日で読みあげてしまった。じっくりと読み味わうのは後にして、ざっと荒筋だけを読んだのですが、その中で、主人公の陽子が言った言葉、

「私は、たとえ廃液のようなきたくないものをかけられたって、私は、私本来の姿をうしなわない。」

に、なにかはっとさせられました。今まで、私が生きてきたなかで、一度でも自分の信念を貫きとおしたことがあるだろうか。そう考えたとき、私はいつも臆病で、人の背中に隠れようとするとてもつまらない人間だったと思う、どうしてまわりに流されてしまうのだろうか。どうして、自分らしく生きることができないのだろうか。

自分らしく生きる。これは簡単なようで、なんと難しいことであろうか。「氷点」の主人公、陽子は、その不幸な境遇と生い立ちの

自分らしく生きられない一つの原因として考えられるものに、人の目というものの存在がある。特に私にとっては大きな存在である。

「みんなはああ言うけれど、私はこう思う。しかし、今私がこう言ったら、あの人は私のことを嫌にならないだろうか、みんなは私をのけ者にして、あざけらないだろうか。」私は常にこのようなことを、私の中に思いめぐらせ、小さなことにもいつまでもぐずぐずととらわれる。そして、その悩みの種を心の中でおくおくいわせて、いつのまにか、心の底の方に沈んでいくのを待っている。我ながら本当にあきれてしまう。

自分らしく生きたい。人がなんと言おうと自分の信念を曲げない、強い人になりたい。たとえまわりが「黒」と言っても、白に思われるときには、胸をはって「白」と言えるような、そんなまっすぐな人になりたい。今からでも遅くはない。私はこれからすこしずつ努力し、自分の信念を貫きとおす強い人になろう。私は自分らしく生きることを大切に、これを一生のテーマとしたい。

わたしと友達

二年 後藤 淳

自分ってどんな人間なのかなって思うことがないだろうか。「本当の自分」に出会ってみたいと思うことがないだろうか。

私は、時々真剣に鏡を見ながら、自分に尋ねてしまう。怒った顔をして、しかもっ面をして、にっこり笑ってみて、深刻にまゆを寄せて、色々な顔をして鏡の中の自分と話し合おう。

鏡の中の私は、短気な私、やさしい私、色々思い出させてくれるが、はっきりととは答えを言ってくれない。怒りっぽいけど、優しいところもあるし、すぐ弱音を吐くけど、けっこうがまん強いし、なんて思ったりするところ、自分にはやっぱり甘いのかなあ、なんてつぶやいて、本当の自分探しは疲れてしまう。

でも、現実の本当の自分はどうだろう。テストが悪いときは落ち込みが激しくて、思い通りにいかない時は、悲しくて涙があふれる普通の女の子。

でも、そういうときは、いつでも友達がいてなぐさめてくれたり、心配の電話をかけてくれたりしてくれる。私の鏡は何も答えてく

れないけど、友達は私に色々言ってくれり。私が母と口げんかをして怒っている時も、私の友達は、じっと聞いてくれて、けっこうきついいことを言ってくれる。

私は、本当のことを言い合える友達がいて、すごく楽しいことだと思える。友達がいなかったら、毎日の学校生活もつまらなかつたりすると思う。美人にもあこがれるし、天才少女にもあこがれるけれど、心から話せる友達がいるということが、一番あこがれることではないだろうか。

私達中学生は、親から、先生方から、まだ子供だといって厳しく、拘束されるが、私達の頭の中では、色々なことが、爆発しながら成長していると思う。頭ごなしに叱らないでほしいという気持ちで一杯なのに、なぜか大人には伝わってくれない。

私は反抗的だとよく叱られて、しょんぼりするけれど、そんな時は、友達とよく長々と話をし、なぐさめてもらう。

私にとって心の中で握手できる友達が、今の私の最高の「大切にしたいこと」である。

そして、私も友達にとって、大切な人間になれるよう、心の広い人間になりたいと考えている。

今、大切にしたいこと

一年 伊藤 嘉邦

祖母の家でご飯を食べた時のことである。その日は、僕の大好きなハンバーグがついた。食べ終わってから、祖母が皿を洗う前にハンバーグの皿を、チリ紙で拭き取っていた。

「おばあちゃん、何しているの。」と聞く。祖母は顔をほころばせながら、よくぞ聞いてくれた、という顔をして、「あんだ、わかるかい。地球がこの頃、汚染してきているという話。テレビでよくやっているとしよう。」といった。でも、これが地球の汚染につながることは知らなかった。

祖母はさらに話を続けた。「このままお皿についた油類を水や洗剤で洗い流してしまうと、下水を通して、この地域では函館港に流れこんでしまうんだよ。そこから、どうなると思う。」と僕に聞いた。

僕は、ハンバーグの油のついた肉くずやケチャップが、そのまま流れて、海を汚してしまっただろうことを話した。祖母は、「よくわかってるね。」といっはほえんだ。

その後、僕は自分の家のことを考えてみた。燃えるごみも、燃えないごみも、家族の一人

一人が、仕分けをしてごみ箱に入れている。もし、分けなければどうなるだろうか。それは、ごみ工場の焼却炉で、プラスチック、発泡スチロールなどと一緒に燃えて、有毒ガスが発生し、大気の汚染となり、地球が汚れる。これは大変なことなのだ。

現在、ぼくの家では、資源ごみを大切にしている。物置に古新聞や古雑誌を置く棚を作り、空き缶入れの段ボールや空きびんを入れる段ボールを置き、祖母の家と共用で保管する。資源回収日が近づくと、祖父と僕とで空き缶を小さくつぶしたり、びんは種類別に仕分けしておく。新聞とちらしは分けて、ひもで上手にしばるのが祖父の仕事。

八幡町会の資源回収車は、小型トラック二台で、毎月の第四日曜日に五人の人がやって来る。「お早ようございます。」といつも笑顔で、明るく、声がけのいい人達である。

祖父も大きな声で「ご苦労さんです。」とあいさつしたり、「有難うございます。」と感謝の気持ちをおいっばいこめて、声をかけている。僕も何かしなくてはならない気持ちになり、トラックに古新聞を積み上げる手伝いをしている。資源の再利用で物を大切にすることを運動に奉仕する人達と祖父との会話を通し、温かい心の通じ合いが見えて、僕の心もなごむのである。

平成三年度 教職員名簿

校 長 田嶋靖彦
 教 頭 高村昭三
 教 諭 増川四郎
 ” 木村達
 ” 井筒泰三
 ” 村井貞夫
 ” 高橋一也
 ” 吉田安宏
 ” 辰宮稔
 ” 斎藤克巳
 ” 佐藤泰治
 ” 松山元彦

教 諭 上田陽子
 ” 杉山春吉
 ” 田村順子
 ” 吉田 孜
 ” 浅井庸子
 ” 木村 以久子
 ” 中谷 満
 ” 大村 俊幸
 ” 古館 勉
 ” 信田 博之
 ” 吉田 美奈子
 養護教諭 齋藤直美
 事 務 泉 郁子
 用 務 松本 恭右
 ” 近江谷 千春
 給 食 沢部 ハルエ
 日 直堀 俊邦

○編集後記○

皆さん、今年の生徒会誌「五稜」はいかがだったでしょうか。今年は開校三十周年という記念すべき年にあたり、内容もそれにふさわしく充実したものになりました。みなさんにも満足していただけたことと思いますが、この「五稜」のページをめくる度に、今年一年間の学校行事、体育・文化活動など数々の事が思い出されたのではないのでしょうか。そして、何年たっても思い出がよみがえってくるという点では、これ以上のものはない最高の「五稜」になったと思います。

さて、これから三年生は卒業して、それぞれ自分の道を歩んでいくわけですが、その途中、時々でもこの本を開いてなつかしい中学校生活を振り返ってみたり、困難なことにつかった時は、先生方や友人、後輩の励ましを読んで役立ててもらえたら、幸いです。また、一、二年生はこれから上級生として、この五稜中学校を引っばっていかなければなりません。その中の思い出を、来年、再来年の「五稜」に刻みこんでいって下さい。

最後になりましたが、この「五稜」を編集するにあたり、お世話になった先生方、そして編集委員のみなさん、本当にありがとうございました。（編集委員長 多田 徳広）



編集委員 ×××××

【三年】

多田 徳広	立林 英明
齊藤 貴生	張間 真人
安達 天下士	宮腰 聖子
村井 大吉	橋爪 有希
三浦 仁	丸井 景子
田中 綾子	三好 美和
金野 瑞穂	【二年】
山本 妙子	柏 充
七戸 明美	西口 しのぶ
小林 優	山川 加奈
高野 貴之	【顧問】
佐藤 健太郎	上田 陽子先生
谷口 哲将	大林 俊幸先生

表紙作品	三年	丸山 滋
巻頭詩・カット	三年	阿部 久美子
表紙構成	吉田 宏先生	安 宏先生
グラビア	辰宮 稔先生	遠 先生
毛筆	木村 達先生	

平成三年度生徒会誌

「五 稜」第31号

発行日 平成四年三月十四日

発行 函館市立五稜中学校

生徒会

印刷 (有)久保内印刷所

函館市豊川町七一二六
電話(三三)二二一六七八



函館市立五稜中学校生徒会